

教科(科目)	国語（論理国語）	単位数	2単位	学年(コース)	3学年 必修
使用教科書	東京書籍『新編論理国語』				
副教材等	東京書籍『新編論理国語学習課題ノート』 尚文出版『常用漢字ダブルクリア四訂版』 尚文出版『国語必携ライトパーフェクト演習三訂版』 桐原書店『楽しく書ける作文・小論文基本編』 他				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	～上越地域唯一の商業を専門とした高等学校として、生徒の多様な進路に対応した教育活動を行います～ ①1年生では基礎学力の充実に努めるとともに、積極的に将来の自分について探求する姿勢を育成します。 ②2年生では商業科目を系統的に学習することを通して、高い専門性を追求します。 ③3年生では学校の教育活動全体を通して、実社会で必要とされるビジネスマナーの習得を目指します。 ④各学年における探究的な学習活動や体験学習、教科横断的な学習により、深い学びを実践していきます。
カリキュラム・ポリシー	～このような生徒を求めています～ ①将来は自分でお店を持つなど、起業に関心がある生徒。 ②事務や販売などの仕事につくことを目指しており、そのための知識を学びたい生徒。 ③生まれ育った地域のために自分に何が出来るか考えている生徒。 ④新しいことに挑戦してみたいという積極性があり、進路希望実現のために努力を惜しまない生徒。 ⑤健康的で規則的な生活習慣をもち、ルールやマナーを守れる生徒。

2 学習目標

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 実社会に必要な国語の知識や技能を身につけるようにする。 (2) 論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようになる。 (3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

3 指導の重点

① 文学的な文章に親しみ、深く共感したり、豊かに想像したりする力を伸ばします。 ② 他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりします。 ③ 言葉がもつ価値への認識を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養います。
--

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
実社会に必要な国語の知識や技能を身につけている。	「書くこと」、「読むこと」の各領域において、論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。	言葉を通して積極的に他者や社会に関わったり、思いや考えを広めたり、深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、読書に親しむことで自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深めて言葉を効果的に使おうとしている。

5 評価方法

評価方法	各観点における評価方法は次のとおりです。		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	以上の観点を踏まえ、 ・ペーパーテストの分析 ・提出された課題などの確認 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・ペーパーテストの分析 ・提出された課題などの確認、分析 ・振り返りシートの分析 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・授業への取組状況の観察 ・振り返りシートの分析 などから、評価します。
	内容のまとまりごとに、各観点「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」で評価します。内容のまとまりごとの評価基準は授業で説明します。		

6 学習計画

月	単元名	授業時数 と領域	教材名	学習活動(指導内容)	時間	評価方法
<u>4</u> <u>5</u>	時代をひらく	5 読むこと	最初のペンギン	・生きるために、不確実性のもとで決断し海の中に真っ先に飛び込む「最初のペンギン」の行動の意味を確認する。 ・タイトルに象徴される筆者の考えを手がかりにして、自分の生き方について考える。 ・「不確実な状況下」で、私たちはどのように判断し、行動してきたかを振り返り、論述する。	5	小テスト等 ワークシートの確認、分析
		2 書くこと			2	成果物の内容
		5 読むこと			5	成果物の内容 ワークシートの確認
		2 書くこと			2	中間考査
<u>6</u>	新しい視点から	4 読むこと	物語の外から	・二人の語り部に共通する姿から、「語る」ということの本質について考えを深める。	4	成果物の内容 ワークシートの確認
<u>7</u>	短い論文を書いて読み合おう	5 読むこと	カフェの開店準備	・日々の何気ない光景から広がっていく筆者の思考を手がかりにして、自分の日常を見つめ直す。	5	小テスト等 ワークシートの確認、分析
<u>8</u>		7 書くこと	資料を読んで内容を理解する	・文章を読んで問いを持ち、自分の意見を短い論文にまとめる。 ・グループに分かれて、書いた論文を発表しあう。	7	小テスト等 ワークシートの確認、分析
<u>9</u>		5 読むこと	鏡としてのアンドロイド	・アンドロイドの研究を踏まえた評論を読んで、人間に対する筆者の考えを捉える。 ・「何かを作ること」とはどのようなことであるか、自分の考えを書く。	5	成果物の内容 ワークシートの確認 中間考査
<u>9</u>		2 書くこと			2	
<u>10</u>	豊かな認識	4 読むこと	言葉は「ものの名前」ではない	・言語と認識の関係について、具体例をもとに主張している評論を読み、言葉の働きについて考える。	4	成果物の内容 ワークシートの確認

11		4 書くこと	図表の読み取り方	・図表の読み方を理解し、情報を適切に読み取れるようにする。	4	成果物の内容 ワークシートの確認
		8 書くこと	資料を活用して論述しよう	・資料を集めて論題を設定し、意見を整理して論述する。 ・書き終えた小論文を読み直したり、グループに分かれて小論文を読み合ったりして、推敲や修正を行う。	8	成果物の内容 ワークシートの確認 期末考査
12						
1	知のゆくえ	4 読むこと	もう一つの知性	・科学的思考とは異なる思考の在り方を理解し、現代社会を生きるうえで必要な態度について考える。	4	成果物の内容 ワークシートの確認 学年末考査
2	明日をみつめて	6 読むこと	ホンモノのお金の作り方	・具体例と終章的な説明に着目して、評論の内容を的確に読み取る。 ・二つの例の対比に注意して論旨をたどり、貨幣の持つ不思議さについて理解を深める。	6	成果物の内容 ワークシートの確認
3		4 読むこと	未来のありか	・文章の構成・展開の巧みさを確認する。 ・小見出しを参考にして各部分の内容と関係を読み取り、未来とは何かについて考える。	4	成果物の内容 ワークシートの確認
		3 読むこと	やさしい日本語	・資料を読んで「やさしい日本語」について理解し、実用的な文章の分かりやすさについて考える。	3	成果物の内容 ワークシートの確認

計 70 時間 (50 分授業)

※ 領域ごとの授業時数合計

「書くこと」 25時間	「読むこと」 45時間
-------------	-------------

7 課題・提出物等

・積極的に筆者の提示する問題や根拠を学習の見通しをもって捉え、文章の論理展開や提示された資料をもとに筆者の主張を的確に理解し、その内容について話し合おうとしている。

8 担当者からの一言

科目「論理国語」では、実社会に必要な国語の知識や技能を身につけます。論理的な文章を読むことを通じ論理的、批判的に考える力を伸ばします。それは実社会や実生活で生きていくために必要な力です。この力は高校3年間だけではなく、生涯を支える力となります。意欲的な取り組みを期待します。

教科(科目)	国語（文学国語）	単位数	2単位	学年(コース)	3学年 必修
使用教科書	大修館書店『新編 文学国語』				
副教材等	大修館書店『新編文学国語学習ノート』				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	～上越地域唯一の商業を専門とした高等学校として、生徒の多様な進路に対応した教育活動を行います～ ①1年生では基礎学力の充実に努めるとともに、積極的に将来の自分について探求する姿勢を育成します。 ②2年生では商業科目を系統的に学習することを通して、高い専門性を追求します。 ③3年生では学校の教育活動全体を通して、実社会で必要とされるビジネスマナーの習得を目指します。 ④各学年における探究的な学習活動や体験学習、教科横断的な学習により、深い学びを実践していきます。
カリキュラム・ポリシー	～このような生徒を求めています～ ①将来は自分でお店を持つなど、起業に関心がある生徒。 ②事務や販売などの仕事につくことを目指しており、そのための知識を学びたい生徒。 ③生まれ育った地域のために自分に何が出来るか考えている生徒。 ④新しいことに挑戦してみたいという積極性があり、進路希望実現のために努力を惜しまない生徒。 ⑤健康的で規則的な生活習慣をもち、ルールやマナーを守る生徒。

2 学習目標

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身につけるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。 (2) 深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。 (3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

3 指導の重点

① 文学的な文章に親しみ、深く共感したり、豊かに想像したりする力を伸ばします。 ② 他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりします。 ③ 言葉がもつ価値への認識を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養います。
--

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身につけるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めている。	「書くこと」、「読むこと」の各領域において、深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。	言葉を通して積極的に他者や社会に関わったり、ものの見方、感じ方、考え方を深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、読書に親しむことで自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもとうとしている。

5 評価方法

評価方法	各観点における評価方法は次のとおりです。		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	以上の観点を踏まえ、 ・ペーパーテストの分析 ・提出された課題などの確認 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・ペーパーテストの分析 ・提出された課題などの確認、分析 ・振り返りシートの分析 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・授業への取組状況の観察 ・振り返りシートの分析 などから、評価します。
	内容のまとまりごとに、各観点「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」で評価します。内容のまとまりごとの評価基準は授業で説明します。		

6 学習計画

月	単元名	授業時数 と領域	教材名	学習活動(指導内容)	時間	評価方法
<u>4</u>	心を見つめる	4 読むこと	飛ぶことを知っている魂	・具体例をもとに、筆者のメッセージを読み取る。 ・文体の特徴や表現に注目し、その効果を考える。	4	小テスト等 ワークシートの確認、分析
<u>5</u>	小説を楽しむ(二)	5 読むこと	待合室	・登場人物の視点や表現の特色に注目し、その働きを意識しながら読む。 ・登場人物の考え方をとらえ、自分の考えと比較しながら自分の考えを広げる。	5	成果物の内容 ワークシートの確認
	古典の世界4	5 読むこと	源氏物語「桐壺」	・登場人物の設定や描写のしかたをとらえ、読みを深める。 ・作品解説	5	成果物の内容 ワークシートの確認 中間考査
<u>6</u>	文化を感じる	3 読むこと	夏の月	・筆者の考える夏の月の良さをとらえる。 ・引用された作品を読み、解釈を深める。	3	小テスト等 ワークシートの確認、分析
		3 読むこと	共感と驚異	・筆者の考える、短歌が人を感動させるための方法を読み取る。 ・引用された作品を読み、筆者の主張を確かめる。	3	成果物の内容 ワークシートの確認 期末考査
<u>7</u>	短歌・俳句に親しむ	2 読むこと	短歌	・形式や表現に注意して読み味わう。	2	成果物の内容 ワークシートの確認
		3 読むこと	俳句	・形式や表現に注意して読み味わう。 ・できごとや心情を川柳の形式で表現する。 ・印象的に表現するための言葉や表現を工夫する。	3	成果物の内容 ワークシートの確認
<u>8</u>		3 書くこと	十七音のパズル ①川柳を作ろう	・俳句の構成方法を知り、情景を「取り合わせ」の手法で表現する。 ・季語について知り、興味と関心を深める。	3	成果物の内容 ワークシートの確認
<u>9</u>		3 書くこと	②俳句を作ろう		3	成果物の内容 ワークシートの確認
	古典の世界	2 読むこと	能登殿最期	・能登殿の描かれ方をとらえ、読みを深める。 ・漢文の表現に着目し、項王の心情を読み取る。	2	成果物の内容 ワークシートの確認 中間考査
		2 読むこと	四面楚歌		2	

10	名作を読む	10 読むこと	こころ	・登場人物の生き方から、自分自身の生き方に関する考えを深める。 ・優れた表現に触れ、読み味わう。	10	成果物の内容 ワークシートの確認
11	小説を味わう	4 読むこと	山椒魚	・登場する生き物たちの性格や心理を読み取る。 ・話のおもしろさと、そこに込められた寓意を読み味わう。	4	成果物の内容 ワークシートの確認 期末考査
12		4 読むこと	離さない	・登場人物の描写から、場面ごとの心情の変化を読み取る。 ・作品の状況設定を的確にとらえ、寓意性を読み取る。	4	果物の内容 ワークシートの確認
1	物語を紡ぐ	3 書くこと	ショートショートを書こう	・発想を広げ、起承転結のパターンに従ってショートショートを書く。 ・さまざまな作品を参考にして、構成や展を工夫する。	3	成果物の内容 ワークシートの確認
		3 書くこと	名曲から物語を書こう	・曲から思い浮かぶできごとや心情を物語にする。 ・構成・展開や、心情・情景描写などの表現を工夫する。	3	成果物の内容 ワークシートの確認
		3 書くこと	クラスの作品集をまとめよう	・これまで学んできたことを活用し、読み手の助言もふまえて作品を仕上げる。 ・共同で作品集の編集・制作に取り組む。	3	成果物の内容 ワークシートの確認 学年末考査
2	文学を生み出す	2 読むこと	私たちの黄色	・さまざまな小説を読み、構成や表現の工夫を読み取る。	2	成果物の内容 ワークシートの確認
		2 読むこと	タイムリミット	・さまざまな小説を読み、構成や表現の工夫を読み取る。	2	成果物の内容 ワークシートの確認
3		2 読むこと	書斎	・さまざまな小説を読み、構成や表現の工夫を読み取る。	2	成果物の内容 ワークシートの確認
	読書の広場	2 読むこと	さくら日和	・読書に興味をもち、積極的に読書に取り組む。 ・作品の構造や語り手の視点を意識しながら、作品を味わう。	2	成果物の内容 ワークシートの確認

計 70 時間 (50 分授業)

※ 領域ごとの授業時数合計

「書くこと」	15 時間	「読むこと」	55 時間
--------	-------	--------	-------

7 課題・提出物等

・積極的に筆者の提示する問題や根拠を学習の見通しをもって捉え、文章の論理展開や提示された資料をもとに筆者の主張を的確に理解し、その内容について話し合おうとしている。

8 担当者からの一言

科目「文学国語」では、文学作品を読むことを通じて深く共感したり、豊かに想像したりする力を伸ばします。さらに、さまざまな視点からの文章を読むことによって多面的な見方を学びます。それは実社会や実生活で生きていくために必要な力です。この力は高校3年間だけではなく、生涯を支える力となります。意欲的な取り組みを期待します。

教科(科目)	地理歴史科（地理総合）	単位数	2単位	学年(コース)	3学年 必修
使用教科書	帝国書院『高校生の地理総合』、二宮書店『詳解現代地図最新版』				
副教材等	第一学習社『最新地理図表GEO2024』				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	～卒業までにこのような資質・能力を持つ生徒を育成します～ ①社会の発展に貢献しようとする大きな志を持って、主体的に地域の生活を創造できる能力を持つ生徒を育成します。 ②ビジネスシーンにおいて様々な他者と関わり、チームワークを重んじながら課題を発見し、解決への道筋を立てる力を備えた生徒を育成します。 ③自己を管理する力を持ち、市民としての社会的責任を自覚する勤勉な態度の生徒を育成します。 ④世界には多様な価値観があることを理解し、自分の考えを適切な言葉で表現し、コミュニケーションを図ることが出来る生徒を育成します。
カリキュラム・ポリシー	～上越地域唯一の商業を専門とした高等学校として、生徒の多様な進路に対応した教育活動を行います～ ①1年生では基礎学力の充実に努めるとともに、積極的に将来の自分について探求する姿勢を育成します。 ②2年生では商業科目を系統的に学習することを通して、高い専門性を追求します。 ③3年生では学校の教育活動全体を通して、実社会で必要とされるビジネスマナーの習得を目指します。 ④各学年における探究的な学習活動や体験学習、教科横断的な学習により、深い学びを実践していきます。

2 学習目標

社会的事象の地理的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 地理に関わる諸事象に関して、世界の生活文化の多様性や、防災、地域や地球の課題への取組などを理解するとともに、地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。 (2) 地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。 (3) 地理に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の国土に対する愛情、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとする大切さについての自覚などを深める。日本と世界について一般教養レベルの知識を獲得し、さらにより深く多面的多角的な考察が可能になるよう理解を深める。資料活用能力を育成するとともに、自分の意見をまとめ、さらに表現する能力を養う。学習の成果をもとに、現代における様々な地理的な課題の解決を図る事ができる力を養う
--

3 指導の重点

地理に関わる諸事象について、調査資料の分析とそれをまとめる技能を養う。そのために地図や地理情報システムの活用方法を身に付ける。 2年次で学んだ歴史総合と関連して世界と我が国日本とのつながりやあり方、さらには現代社会にある様々な課題に着目し、地理的観点からの解決方法を考察できるよう力を養う。 グローバルな視点から国際理解や国際協力の在り方、持続可能な社会の実現に向けての考察ができるような力を付ける
--

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・地域構成と自然的・社会的環境に関する基本知識を理解している。 ・地図、表、グラフなどから地理情報を読み取り、まとめることができる。	・諸資料を活用し、地理に関する事象の意味や意義等を考察することができる。 ・考察した内容を自らの意見もふまえて適切に表現することができる。 ・地球規模の諸課題や地域課題について、諸資料を活用し、事象の意味や背景、因果関係について多面的・多角的に思考し考察することができる。	・資料や学んだ知識五能を活用して主体的に調べ、諸課題を意欲的に追求し、捉えようとしているか ・世界の多様性について共感的に理解し、地図や資料の活用や調査を通して意欲的に取り組んでいるか

5 評価方法

評価方法	各観点における評価方法は次のとおりです。		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	以上の観点を踏まえ、主に定期考査・レポート・ノートのまとめ方や内容などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、主に定期考査・レポート・ノートの記述内容・研究発表内容などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、主に授業態度や積極的参加状況・課題の提出内容の分析などから、評価します。
	内容のまとめりとともに、各観点「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」で評価します。内容のまとめりとともに評価基準は授業で説明します。		

6 学習計画

月	単元名	授業時数 と領域	教材名	学習活動(指導内容)	時間	評価方法
4	1部1章 地図や地理情報システムと現代社会	8	地球儀と地図	①地球上の位置と地上の現象②経度の違いと時差	4	提出プリント
5	1部2章 結びつきを深める現代社会		地理と地理情報システム	①地図の種類②地理情報システムの利用	4	
6	2部1章 生活文化の多様性と国際理解	6	現代世界の国家と領域	①国家の領域と国境②地図から見る日本の位置と領域	2	定期考査、ノート
7		7	地図から見る国内や国家間の結びつき	①グローバル化と多様な結びつき②拡大する貿易③世界を結ぶ交通・通信④観光と人の移動のグローバル化	4	
8		7	生活文化の多様性	①生活文化を考察する視点	1	提出プリント
9			世界の地形と人々の生活	①生活と地形の関わり②河川がつくる地形と人々の生活③海岸の地形と人々の生活④氷河地形・カルスト地形と人々の生活	6	
10	2部2章 地球的課題と国際協力	16	世界の気候と人々の生活	①生活と気候の関わり②熱帯の気候と人々の生活③乾燥帯の気候と人々の生活④温帯の気候と人々の生活⑤亜寒帯・寒帯の気候と人々の生活	6	定期考査、ノート
11			世界の産業との気候と人々の生活	①生活を支える農業の発展②生活を支える工業の発展	3	
12		13	世界の宗教・民族・言語と人々の生活	①宗教・民族・言語の多様性	4	課題レポート
1	3部1章 自然環境と防災		多様な生活文化と地理的環境	①国際理解をふかめるために②世界から見た日本の生活文化	3	
2		16	複雑に絡み合う地球的課題	①地球的課題と解決に向けた目標	1	定期考査、ノート
3	3部2章 生活圏の調査と地域の展望		人口問題	①人口の増加と少子化・高齢化②地域で異なる人口問題と取り組み	3	
		4	食糧問題	①飢餓と飽食	1	定期考査、ノート
			都市・居住問題	①都市への人口集中②地域で異なる人口問題と取り組み	2	
		13	感染症・衛生問題	①広がる感染症と衛生問題	1	定期考査、ノート
			資源・エネルギー問題	①限りある資源・エネルギー②地域で異なる資源・エネルギー問題と取り組み	5	
		16	地球環境問題	①国境を越えて広がる地球環境問題②地球温暖化と国際的な取り組み	3	課題レポート
			日本の自然環境	①日本の自然環境と人々の生活	2	
		16	地震・津波や火山活動による災害と防災	①地震・津波のしくみと被害②地震・津波災害と地域の取り組み③火山の恵みと噴火による被害④火山被害と地域の取り組み⑤地震・津波や火山活動への対策と共生の道	5	定期考査、ノート
			気象災害と防災	①さまざまな気象災害②気象災害と地域の取り組み③気象災害への対策と備え	3	
		4	自然災害への備え	①減災への取り組みと被災地への支援	3	課題レポート
				①地理的な調査テーマの設定 ②事前調査と現地調査 ③調査結果の分析と仮説の検証 ④調査のまとめと地域づくりへの参画	4	

計 70 時間 (50 分授業)

7 課題・提出物等

配布プリント、定期考査の際に提出するノート、課題レポート 等

8 担当者からの一言

「異文化」を理解することはグローバルな時代を生きる諸君が最も心掛けなければならないことのひとつです。地理は暗記科目ではありません。ひとつでも多くの国の様子を紹介し、ひとつでも多くの発見をしてもらいたいと思っています。さあ、私たちの住む地球の過去・現在・未来を見つける旅に出発しましょう。いざ地理の世界へ ！

教科(科目)	理科（科学と人間生活）	単位数	2単位	学年(コース)	3学年 必修
使用教科書	東京書籍 『科学と人間生活』				
副教材等	東京書籍 『ニューサポート 科学と人間生活』				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	～卒業までにこのような資質・能力を持つ生徒を育成します～ ①社会の発展に貢献しようとする大きな志を持って、主体的に地域の生活を創造できる能力を持つ生徒を育成します。 ②ビジネスシーンにおいて様々な他者と関わり、チームワークを重んじながら課題を発見し、解決への道筋を立てる力を備えた生徒を育成します。 ③自己を管理する力を持ち、市民としての社会的責任を自覚する勤勉な態度の生徒を育成します。 ④世界には多様な価値観があることを理解し、自分の考えを適切な言葉で表現し、コミュニケーションを図ることが出来る生徒を育成します。
カリキュラム・ポリシー	～上越地域唯一の商業を専門とした高等学校として、生徒の多様な進路に対応した教育活動を行います～ ①1年生では基礎学力の充実に努めるとともに、積極的に将来の自分について探求する姿勢を育成します。 ②2年生では商業科目を系統的に学習することを通して、高い専門性を追求します。 ③3年生では学校の教育活動全体を通して、実社会で必要とされるビジネスマナーの習得を目指します。 ④各学年における探究的な学習活動や体験学習、教科横断的な学習により、深い学びを実践していきます。

2 学習目標

- 自然の事物・現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して自然の事物・現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。
- (1) 自然と人間生活との関わり及び科学技術と人間生活との関わりについての理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能を身に付けるようにする。
 - (2) 観察、実験などを行い、人間生活と関連付けて科学的に探究する力を養う。
 - (3) 自然の事物・現象に進んで関わり、科学的に探究しようとする態度を養うとともに、科学に対する興味・関心を高める。

3 指導の重点

- ・科学技術の発展が、今日の人間生活に対してどのように貢献してきたかについて理解させる。
- ・身近な自然の事物・現象及び日常生活や社会の中で利用されている科学技術を取り上げ、科学と人間生活とのかわりについて認識を深めさせる。
- ・自然と人間生活とのかわり及び科学技術が人間生活に果たしてきた役割についてのテーマ学習に取り組み、科学的思考およびこれからの科学と人間生活とのかわり方について考察させる。

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
自然の事物・現象について基本的な概念や原理・法則を理解している。自然の事物・現象を科学的に探究するための知識と技能を身につけているようにしている。	自然の事物・現象の中に問題を見だし、探究する過程を通して、事象を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現しようとしている。	自然の事物・現象を積極的に観察し、科学的に捉え、理解しようとする態度を身につけようとしている。

5 評価方法

評価方法	各観点における評価方法は次のとおりです。		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	以上の観点を踏まえ、 ・定期考査 ・実験時の内容理解や操作状況 ・実験レポートの内容 ・提出された問題集や課題の内容 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・定期考査 ・実験レポートの内容 ・提出された問題集や課題の内容 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・授業中の質疑応答 ・ワークやプリントでの作図や計算問題等への取り組み ・提出された課題の内容 ・グループ討議やレポートの内容 などから、評価します。
	内容のまとまりごとに、各観点「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」で評価します。内容のまとまりごとの評価基準は授業で説明します。		

6 学習計画

月	単元名	授業時数 と領域	教材名	学習活動(指導内容)	時間	評価方法
4	1編 2章 ヒトの生命現象	2	〈 授業時 〉	視覚と光	2	〈 授業時 〉
5		2		目の構造とはたらき	2	・授業中の取り組み
		2	・授業中の取り組み	実験観察 ① 盲斑の検出	2	(発問・発表・質疑応答等)
6	1学期中間考査	1	み	1学期中間考査	1	・演習問題への取り組み
		2	(発問・発表・質疑応答等)	血糖濃度調節のしくみ	2	・ワークへの記入・作図などの作業
		2		免疫	2	
		2	・演習問題への取り組み	免疫のしくみと日常生活	2	
7	1学期期末考査	2	・演習問題への取り組み	遺伝子とDNA	2	〈 実験時 〉
		1		1学期期末考査	1	・実験操作の正確さ
		2		遺伝子とタンパク質	2	・記録の正確さ
		1	み	実験観察 ② DNA分子モデル作成	1	・グループ討議の様子
8			・ワーク			
		2	への記入・作	資源の再利用	2	・レポートの内容
9	2編 1章 材料と その利用	3	入・作	金属の性質	3	・準備・後片付け
		2	図など	金属の製錬と人間生活	2	
		2	の作業	金属の再生利用	2	・提出された課題の内容
		2		プラスチックの性質と分類	2	
10		3	〈 実験時 〉	プラスチックの再生利用	3	
		3		実験観察 ③ ナイロンの作成	3	・定期考査
	2学期中間考査	1	・実験操作の正確さ	2学期中間考査	1	
11	3編 1章 光の性質とその利用	3	・記録の正確さ	光の進み方と見え方	3	
		3		光の波としての性質	3	
		3	・グループ討議の様子	目に見える光と色の見え方	3	
12		1		光の3原色と色	1	
		1		電磁波の利用	1	
		2	・レポートの内容	実験観察 ④ 簡易分光器作成	2	
		3		移り変わる地球の景観	3	
1		3	・準備・後片付け	山地や低地のでき方	3	
2	2学期期末考査	1		2学期期末考査	1	
3	4編 2章 自然景観と自然災害	3	・提出された課題の内容	火山がつくる景観	3	
		1		太陽のエネルギーがつくる景観	1	
		2		自然災害と防災	2	
	学年末考査	2		地震による災害	2	
		1	・定期考査	火山による災害	1	
		1		気象災害・土砂災害と防災	1	
		1		自然災害との付き合い方	1	
		2		実験観察 ⑤ 液状化のモデル実験	2	

計 70 (50 分授業)

7 課題・提出物等

・授業時に配付される課題プリント ・実験時に配付されるレポート ・問題集

8 担当者からの一言

日頃からの授業や家庭学習をしっかりと行い、一方的に与えられるものをこなすばかりでなく、自分から積極的に学習する態度を常に心がけること。提出物は期限厳守で必ず提出すること。生命現象への理解を深めることによって、生命の不思議さと重要性を知ってもらいたい。実験活動は班単位で行う場合が多く、協力して良いレポートを作成してほしい。提出物は、期限を守り、確実に提出すること。

教科(科目)	保健体育（体育）	単位数	2単位	学年(コース)	3学年 必修
使用教科書	大修館書店『現代高等保健体育』				
副教材等	大修館書店『現代高等保健体育ノート』				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	～卒業までにこのような資質・能力を持つ生徒を育成します～ ①社会の発展に貢献しようとする大きな志を持って、主体的に地域の生活を創造できる能力を持つ生徒を育成します。 ②ビジネスシーンにおいて様々な他者と関わり、チームワークを重んじながら課題を発見し、解決への道筋を立てる力を備えた生徒を育成します。 ③自己を管理する力を持ち、市民としての社会的責任を自覚する勤勉な態度の生徒を育成します。 ④世界には多様な価値観があることを理解し、自分の考えを適切な言葉で表現し、コミュニケーションを図ることが出来る生徒を育成します。
カリキュラム・ポリシー	～上越地域唯一の商業を専門とした高等学校として、生徒の多様な個性に対応した教育活動を行います～ ①1年生では基礎学力の充実に努めるとともに、積極的に将来の自分について探求する姿勢を育成します。 ②2年生では商業科目を系統的に学習することを通して、高い専門性を追求します。 ③3年生では学校のエデュケーション全体を通して、実社会で必要とされるビジネスマナーの習得を目指します。 ④各学年における探究的な学習活動や体験学習、教科横断的な学習により、深い学びを実践していきます。

2 学習目標

体育や保健の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを継続するための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 〈知識・技能〉 各種の運動の特性に応じた技能等及び社会生活における健康・安全について理解するとともに、技能を身に付けるようにする。 〈思考・判断・表現〉 運動や健康についての自他や社会の課題発見し、合理的、計画的に解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。 〈主体的に取り組む態度〉 生涯にわたって継続して運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。
--

3 指導の重点

①運動の実践を通して、高校生らしい心身の発達と体力の向上を図る。 ②各競技の特性を理解し、スポーツの楽しさや喜びを味わうことができるようにする。 ③運動の実践や準備・後片付けを通して公正、協力、責任などの態度を育てる。
--

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
運動の合理的、計画的な実践に関する具体的な事項や生涯にわたって運動を豊かに継続するための理論について理解しているとともに、目的に応じた技能を身に付けている。また、個人及び社会生活における健康・安全について総合的に理解しているとともに、技能を身に付けている。	自己や仲間の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて、課題に応じた運動の取り組み方や目的に応じた運動の組み合わせ方を工夫しているとともに、それらを他者に伝えている。また、個人及び社会生活における健康に関する課題を発見し、その解決を目指して総合的に思考し判断しているとともに、それらを他者に伝えている。	運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるよう、運動の合理的、計画的な実践に主体的に取り組もうとしている。また、健康を大切にし、自他の健康の保持増進や回復及び健康な社会づくりについての学習に主体的に取り組もうとしている。

5 評価方法

評価方法	評価は次の観点から行います。		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	以上の観点を踏まえ、 ・技能テスト などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・授業中の発言・討論への取組の観察 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・授業中の発言・取組の観察 などから、評価します。
	内容のまとまりごとに、各観点 「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」 で評価します。 内容のまとまりごとの評価基準は授業で説明します。		

6 学習計画

月	単元名	授業時数 と領域	教材名	学習活動(指導内容)	時間	評価方法
4	体づくり運動	6		各種体づくり運動・短距離走	6	技能テスト 行動観察
5	選択Ⅰ	12		選択Ⅰ「バスケットボール」「バレーボール」「バドミントン」「器械運動」から選択	12	
7	選択Ⅱ *11月末まで	屋外 11 屋内 11		【屋外】「陸上競技」「サッカー」「ソフトテニス」「ソフトボール」から選択	11	記録分析
6				【屋内】「バスケットボール」「バレーボール」「バドミントン」から選択	11	
8						
9						
10	陸上競技	8		持久走(男子:4.0Km 女子:3.0Km)	8	▼ 筆記試験 保健ノート提出
11						
12	選択Ⅲ	12		「バスケットボール」「バドミントン」「卓球」「ダンス」から選択	12	
1	体づくり運動	4		体づくり運動(縄跳び等を活用)	4	
2						
3	体育理論	6	保健ノート	運動・スポーツの学び方	6	

計 70 時間 (50 分授業)

7 課題・提出物等

- ・種目ごとに技能テストがあります。
- ・長期見学者は、レポート提出があります。

8 担当者からの一言

技能の向上を図り、主体的に取り組めるようにしましょう。

教科(科目)	外国語科(英語コミュニケーションⅢ)	単位数	4 単位	学年(コース)	3 学年 必修
使用教科書	数研出版『BIG DIPPER English CommunicationⅢ』				
副教材等	数研出版『BIG DIPPER English CommunicationⅢ WORKBOOK』、旺文社『英単語ターゲット1200』、旺文社『書き込み式ノート英単語ターゲット1200Workbook③』、文英堂『WISH 総合英語』				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	～上越地域唯一の商業を専門とした高等学校として、生徒の多様な進路に対応した教育活動を行います～ ①1年生では基礎学力の充実に努めるとともに、積極的に将来の自分について探求する姿勢を育成します。 ②2年生では商業科目を系統的に学習することを通して、高い専門性を追求します。 ③3年生では学校の教育活動全体を通して、実社会で必要とされるビジネスマナーの習得を目指します。 ④各学年における探究的な学習活動や体験学習、教科横断的な学習により、深い学びを実践していきます。
カリキュラム・ポリシー	～このような生徒を求めています～ ①将来は自分でお店を持つなど、起業に関心がある生徒。 ②事務や販売などの仕事につくことを目指しており、そのための知識を学びたい生徒。 ③生まれ育った地域のために自分に何が出来るか考えている生徒。 ④新しいことに挑戦してみたいという積極性があり、進路希望実現のために努力を惜しまない生徒。 ⑤健康的で規則的な生活習慣をもち、ルールやマナーを守れる生徒。

2 学習目標

英語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動及びこれらをつなげた統合的な言語活動を通して、情報や考えなどを的確に理解したり適切に表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1)英語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの理解を深めるとともに、これらの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる技能を身に付けるようにする。 (2)コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、英語で情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解したり、これらを活用して適切に表現したり伝え合ったりすることができる力を養う。 (3)外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に英語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。

3 指導の重点

(1)日常的・社会的な話題について、一定の支援を活用すれば、必要な情報を読んだり聞いたりして、話し手の意図を把握したり、概要や要点を目的に応じて捉えたりできること。 (2)日常的・社会的な話題について、一定の支援を活用すれば、情報や考え、気持ちなどを話して伝え合うやり取りを続けたり、論理性に注意して話して伝え合ったりできること。 (3)日常的・社会的な話題について、一定の支援を活用すれば、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して話したり文章を書いたりして伝えることができること。
--

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・文章を聴き取る(読み取る)ために必要となる語彙や表現、文の構造を理解している。 ・情報や考えを述べる(伝え合う・書く)ために必要となる語彙や表現、音声等を理解している。 ・英文を聴き取る(読み取る)技能を身につけている。 ・日常的な話題や社会的な話題についての情報や考えを理由と共に話して伝える(伝え合う・書く)技能を身につけている。	目的や場面、状況などに応じて、 ・英語を聞いて、概要や要点をとらえている。 ・英語を読んで、概要や要点をとらえている。 ・情報や自分の考えなどを聞いたり読んだりしたことを元に、理由と共に英語で書いている。 ・情報や自分の考えなどを聞いたり読んだりしたことを元に、理由と共に英語で話している。(伝え合っている)	・文化に対する理解を深めようとしている。 ・授業や課題に粘り強く取り組もうとしている。 ・学習の進め方について、自分で調整しようとしている。

5 評価方法

評価方法	各観点における評価方法は次のとおりです。		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	以上の観点を踏まえ、ペーパーテストやパフォーマンス(以下 PT)、単元テスト等の分析、レポートやワークシート(以下 WS)、課題、提出物などの内容の確認などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、ペーパーテストや PT、単元テスト等の分析、授業中の発言、発表や討論への取り組みの観察、レポートや WS、課題、提出物などの内容の確認などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、授業中の発言、発表や討論への取り組みの観察、レポートや WS、課題、提出物などの内容の確認、振り返りシート(以下 RS)の記述の分析などから、評価します。
	内容のまとまりごとに、各観点「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」で評価します。内容のまとまりごとの評価基準は授業で説明します。		

6 学習計画

聞くこと：[L] 読むこと：[R] 話すこと：[S] (やりとり)：(i) (発表)：(p) 【書くこと】：[W]

月	単元名	授業時数と領域	教材名	学習活動(指導内容)	時間	評価方法
4	食文化環境	3 [R] [S:(i)]	Is the Meat Real or Fake?食糧難や環境問題から注目されている代替肉	a. 本文の内容を読み、概要や要点を把握することができる。 b. 本文の内容(代替肉の利点・欠点)について、自分の意見を話すことができる。	3	WS(記述の確認・点検) 活動の様子(行動の確認)
	健康	3 [R] [S:(i)]	Let's Have a Healthy Workout 筋肉の働きと重要性について	a. 本文の内容を読み、概要や要点を把握することができる。 b. 本文の内容(筋力トレーニングの効果や注意点)について、自分の意見を話すことができる。	3	WS(記述の確認・点検) 活動の様子(行動の確認)

5	討論	3 [R] [S(i)]	My Opinion of Zoos 「動物園の是非」に関する賛成・反対それぞれの主張	a. 本文の内容を読み、概要や要点を把握することができる。 b. 本文の内容（動物園の存在に対する賛成・反対の意見）について、自分の意見を話すことができる。	3	WS（記述の確認・点検） 活動の様子（行動の確認）
5	食文化 歴史	3 [R] [S(i)]	The History of Ekiben 日本独自の食文化一旅情を演出する駅弁の歴史	a. 本文の内容を読み、概要や要点を把握することができる。 b. 本文の内容（動物園の存在に対する賛成・反対の意見）について、自分の意見を話すことができる。	3	WS（記述の確認・点検） 活動の様子（行動の確認）
中間考査						RS（言ひ述の理解型）
6	コミュニケーション	3 [R] [S(i)]	Three Tips for Maintaining a Conversation 会話を続ける3つのコツとは	a. 本文の内容を読み、概要や要点を把握することができる。 b. 本文の内容（会話を続けるコツ）を用いてクラスメートと会話を続けることができる。	3	WS（記述の確認・点検） 活動の様子（行動の確認）
6	娯楽 歴史	3 [R] [DW][S(i)]	The History of Recorded Music レコードからサブスクまで、変わってゆく音楽の楽しみ方	a. 本文の内容を読み、概要や要点を把握することができる。 b. 本文の内容（記録音楽の歴史）について、自分の意見を話す／書くことができる。	3	WS（記述の確認・点検） 活動の様子（行動の確認）
6	ウェブサイト	3 [R] [S(i)]	Online Word-of-Mouth レストランの口コミ情報サイトから、必要な情報を読み取る	a. 本文の内容を読み、概要や要点を把握することができる。 b. 本文の内容（飲食店に対する口コミ評価）を基に、特定の店を人に薦めることができる。	3	WS（記述の確認・点検） 活動の様子（行動の確認）
7	自然	3 [R] [DW]	After the Flowers 植物が行う生存戦略、タンポポ、スミレなどの例を紹介	a. 本文の内容を読み、概要や要点を把握することができる。 b. 本文の内容（植物の生存戦略）について、自分の意見を書くことができる。	3	WS（記述の確認・点検） 活動の様子（行動の確認）
7	自然 数語	3 [L] [S(p)]	Hot Springs at Home and Abroad 温泉を楽しむのは日本人だけではない？世界の温泉事情	a. 本文の内容を読み、概要や要点を把握することができる。 b. 本文の内容（日本と海外の温泉地の違い）について、自分の意見を話すことができる。	3	WS（記述の確認・点検） 活動の様子（行動の確認）
期末考査						RS（言ひ述の理解型）
8	芸術	3 [L] [DW][S(p)]	Kintsugi 日本の「もったいない」精神を体現した伝統的技術「金継ぎ」	a. 本文の内容を読み、概要や要点を把握することができる。 b. 本文の内容（日本の伝統技術「金継ぎ」）について、自分の意見を話す／書くことができる。	3	WS（記述の確認・点検） 活動の様子（行動の確認）
9	リーフレット	3 [L] [S(i)]	Art on Display 博物館の案内文から必要な情報を読み取る	a. 本文の内容を読み、概要や要点を把握することができる。 b. 本文の内容について、自分の考えや計画を話すことができる。	3	WS（記述の確認・点検） 活動の様子（行動の確認）
9	心理	3 [R] [DW][S(i)]	Can You Manage Your Anger? 負の感情「怒り」をうまくコントロールする方法	a. 本文の内容を読み、概要や要点を把握することができる。 b. 本文の内容（怒りの感情をコントロールする方法）について、自分の意見を話す／書くことができる。	3	WS（記述の確認・点検） 活動の様子（行動の確認）
10	経済	3 [R] [DW]	Crowdfunding 資金を得る新しい方法「クラウドファンディング」	a. 本文の内容を読み、概要や要点を把握することができる。 b. 本文の内容（クラウドファンディングの利点・欠点）について、自分の意見を書くことができる。	3	WS（記述の確認・点検） 活動の様子（行動の確認）
10	新聞記事	3 [R] [S(i)]	A New Orchestra and a New Harmony ゴミからつくった楽器で演奏する、パラグアイのオーケストラ	a. 本文の内容を読み、概要や要点を把握することができる。 b. 本文の内容（パラグアイの新しいオーケストラ）に関連した写真について、描写することができる。	3	WS（記述の確認・点検） 活動の様子（行動の確認）
中間考査						RS（言ひ述の理解型）
11	スポーツ	9 [R][S(i)]	Instant Replay in Sports スポーツの判定に用いられる新しいテクノロジーについて	a. 本文の内容を読み、概要や要点を把握することができる。 b. 本文の段落構成を把握することができる。	9	WS（記述の確認・点検） 活動の様子（行動の確認）
11	言語文化	9 [R][S(i)]	Endangered Languages 消滅の危機に瀕している世界の言語について		9	WS（記述の確認・点検） 活動の様子（行動の確認）
11	環境	9 [R] [DW][S(p)]	Is This the Right Way to Protect the Environment? 「環境によい」と思われている行動を改めて見直す		9	WS（記述の確認・点検） 活動の様子（行動の確認）
12	教育 社会問題	9 [R] [S(i)]	The Shoe That Grows ケアの貧しい子どもたちのために開発された「成長する靴」		9	WS（記述の確認・点検） 活動の様子（行動の確認）
12	メディア倫理	9 [L] [R]	Fake News 「フェイクニュース」、誤った情報を見分ける方法は？		9	WS（記述の確認・点検） 活動の様子（行動の確認）
12	健康 歴史	9 [L] [R]	Human Society and Infectious Diseases 太古の昔から人類の発展とともに広まってきた感染症		9	WS（記述の確認・点検） 活動の様子（行動の確認）
期末考査						RS（言ひ述の理解型）
1	技術 社会	11 [R] [DW]	顔認識システムで変わる現代の生活や社会	a. 本文の内容を読み、概要や要点を把握することができる。 b. 本文内容を表す画像を参考に、本文の要約文を完成させることができる。	11	WS（記述の確認・点検） 活動の様子（行動の確認）
1	歴史 人権	11 [R] [DW][S(p)]	元黒人奴隷として奴隷解放運動家リット・タブマンの生涯	a. 本文の内容を読み、概要や要点を把握することができる。 b. 本文内容をまとめたポスターを完成させることができる。	11	WS（記述の確認・点検） 活動の様子（行動の確認）
2	防災	11 [R] [DW][S(p)]	海外から日本に来た人たちに「地震災害」についてプレゼンする	本文の内容を読み、概要や要点を把握することができる。	11	WS（記述の確認・点検） 活動の様子（行動の確認）
3	科学 倫理	11 [L] [R][S(p)]	人は科学の力でどれだけ長く生きることができるのか	a. 本文の内容を読み、概要や要点を把握することができる。 b. 本文内容を表す画像とフレーズを用いて、本文の内容をリテリングすることができる。	11	WS（記述の確認・点検） 活動の様子（行動の確認）
学年末考査						RS（言ひ述の理解型）

計 140 時間（50 分授業）

7 課題・提出物等

小テスト（朝学習、週末課題、単語テストを含む）、授業用ワークシート、ワークブック、振り返りシートなど

8 担当者からの一言

英語は言語であり、人と人とのコミュニケーションを図る手段です。授業では、積極的に「アーク」や「グループワーク」に参加し、他者と協力して行動していく姿勢が大切です。

教科(科目)	商業（総合実践）	単位数	3単位	学年(コース)	3学年
使用教科書	なし				
副教材等	高校生からのビジネスマナー（実教出版） 自作教材				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	～上越地域唯一の商業を専門とした高等学校として、生徒の多様な進路に対応した教育活動を行います～ ①1年生では基礎学力の充実に努めるとともに、積極的に将来の自分について探求する姿勢を育成します。 ②2年生では商業科目を系統的に学習することを通して、高い専門性を追求します。 ③3年生では学校の教育活動全体を通して、実社会で必要とされるビジネスマナーの習得を目指します。 ④各学年における探究的な学習活動や体験学習、教科横断的な学習により、深い学びを実践していきます。
カリキュラム・ポリシー	～このような生徒を求めています～ ①将来は自分でお店を持つなど、起業に関心がある生徒。 ②事務や販売などの仕事につくことを目指しており、そのための知識を学びたい生徒。 ③生まれ育った地域のために自分に何が出来るか考えている生徒。 ④新しいことに挑戦してみたいという積極性があり、進路希望実現のために努力を惜しまない生徒。 ⑤健康的で規則的な生活習慣をもち、ルールやマナーを守れる生徒。

2 学習目標

商業の各分野に関する知識と技術を実践的活動を通して総合的に習得させ、ビジネスの諸活動を主体的かつ合理的に行う能力と態度を育てる。

3 指導の重点

- ・模擬取引を通して、1学年より学んだ科目を総合的に習得させる。
- ・基本的なビジネスマナーを身に付けさせる。
- ・株式学習を通じてビジネス社会の全体像を把握させる。

4 評価の観点の趣旨

知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
簿記、会計の知識を活かして、正しい会計処理、記帳ができる。 実社会の現状を把握し、取引の仕組みを理解することができる。	業務遂行に必要な判断力を身に付けることができたか。毎時間の記録帳への適切な記入ができる。	授業に積極的に参加し、模擬取引やマナー学習を通じて、意欲的かつ積極的に取り組んでいる。

5 評価方法

評価方法	各観点における評価方法は次のとおりです。		
	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	以上の観点を踏まえ、定期 考査の結果、提出物の内容な どから評価します。	以上の観点を踏まえ、定期 考査の結果、授業の取り組み の観察、提出物の内容などか ら評価します。	以上の観点を踏まえ、学習 の取り組みの観察、提出物の 内容、定期考査や振り返りな どから、評価します。
	内容のまとまりごとに、各観点「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」で評価します。 内容のまとまりごとの評価基準は授業で説明します。		

6 学習計画

月	单元名	授業 時数 と領域	教 材 名	学習活動(指導内容)	時間	評価方法
4 5 6 7 8 9 10 11 12 1 2 3	模擬取引 (同時同業) ビジネスマナー 模擬取引 (3人1社) ビジネスマナー 模擬取引 (3人1社)	2 7 6 6 4 2 1 2 1 2	副 教 材 ・ 自 作 教 材	- 取引の流れを理解し、必要な会計処理を行うとともに、帳簿組織について復習し、正しく記帳する。 - 株式を理解し、経済状況や世界の情勢を学習する。 - 仕事に対する基本姿勢、対人関係とコミュニケーションなどを中心に、基本的なビジネスマナーについて学習する。 ・ 商事会社、物産会社、銀行、管理部、運輸会社に分かれ、それぞれの業務について学習する。 ・ 開始業務 ・ 通常業務 ・ 仕事に対する基本姿勢、対人関係とコミュニケーションなどを中心に、基本的なビジネスマナーについて学習する。 ・ 月末業務 ・ 決算業務	2 7 6 6 4 2 1 2 1 2	授業への取組 課題提出 授業への取組 課題提出 定期考査 授業への取組 課題提出 定期考査 課題提出

計105時間 (50分授業)

7 課題・提出物等

- ・記録帳(毎時間の記録)、各種帳簿類
- ・学期のまとめ、課題レポートなど

8 担当者からの一言

1年より学習してきた商業科目を基礎に、企業で行われている売買取引を想定し、実習を行うとともに、会社が必要とされる人材になるためのビジネスマナーを学習します。これまでの授業とは違い、一人一人に社会人としての責任を求める授業です。1年間の講義、実習を通じ、ビジネスリテラシーやホスピタリティ精神の涵養を目指します。

教科(科目)	商業（ビジネス法規）	単位数	2単位	学年(コース)	3学年 必修
使用教科書	実教出版『ビジネス法規』				
副教材等	実教出版『ビジネス法規』ワークブック				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	～上越地域唯一の商業を専門とした高等学校として、生徒の多様な進路に対応した教育活動を行います～ ①1年生では基礎学力の充実に努めるとともに、積極的に将来の自分について探求する姿勢を育成します。 ②2年生では商業科目を系統的に学習することを通して、高い専門性を追求します。 ③3年生では学校の教育活動全体を通して、実社会で必要とされるビジネスマナーの習得を目指します。 ④各学年における探究的な学習活動や体験学習、教科横断的な学習により、深い学びを実践していきます。
カリキュラム・ポリシー	～このような生徒を求めています～ ①将来は自分でお店を持つなど、起業に関心がある生徒。 ②事務や販売などの仕事につくことを目指しており、そのための知識を学びたい生徒。 ③生まれ育った地域のために自分に何が出来るか考えている生徒。 ④新しいことに挑戦してみたいという積極生があり、進路希望実現のために努力を惜しまない生徒。 ⑤健康的で規則的な生活習慣をもち、ルールやマナーを守る生徒。

2 学習目標

商業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、法規に基づくビジネスの展開に必要な資質・能力を次のとおり育成することを旨とする。

- （1） ビジネスに関する法規について実務に即して体系的・系統的に理解できるようにする。
- （2） 法的側面からビジネスに関する課題を発見し、ビジネスに携わる者として法的な根拠に基づいて創造的に解決する力を養う。
- （3） ビジネスを適切に展開する力の向上を目指して自ら学び、法規に基づくビジネスに主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

3 指導の重点

- （1） 企業における事例など実際のビジネスと関連付け、ビジネスの様々な場面で役に立つ法規に関する知識を身につけるようにする。
- （2） ビジネスに関する法規をはじめとした様々な知識を活用し、法的側面からビジネスに関する課題を発見するとともに、ビジネスが社会に及ぼす影響を踏まえ、法的な根拠に基づいて工夫してよりよく解決する力を養う。
- （3） 他者と信頼関係を構築して積極的に関わり、法規に基づくビジネスに責任をもって取り組む態度を養う。

4 評価の観点の趣旨

知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・ビジネスに関する法規について実務に即して体系的・系統的に理解することができる。 ・社会生活において必要な法律知識を身につけている。	法的側面からビジネスに関する課題を発見し、ビジネスに携わる者として法的な根拠に基づいて創造的に解決する力を身につけている。	ビジネスを適切に展開する力の向上を目指して自ら学び、法規に基づくビジネスに主体的かつ協働的に取り組む態度を身につけようとしている。

5 評価方法

評価方法	各観点における評価方法は次のとおりです。		
	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	以上の観点を踏まえ、定期考査の結果、提出物の内容などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、定期考査の結果、授業の取り組みの様子、提出物の内容などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、学習の取り組みの様子、提出物の内容、定期考査や検定試験の振り返りなどから、評価します。
	内容のまとまりごとに、各観点「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」で評価します。内容のまとまりごとの評価基準は授業で説明します。		

6 学習計画

月	単元名	授業時数 と領域	教材名	学習活動(指導内容)	時間	評価方法
4	I 法の概要 1 ビジネスにおける法の 役割 2 法の体系と解釈・適用	10	教科書	・ビジネスを適切に行うための 法の役割について理解する。	10	授業の取り組み 授業時の課題
5 6 7	II 権利・義務と財産権 1 権利・義務とその主体 2 物と物権・債権 3 知的財産権	18	教科書	・権利・義務の概要、権利行使 の制限及び物権、債権など財産 権の概要について、法規と関連 付けて理解する。	18	
8 9 10	III 財産権の変動 1 契約 2 物の売買 3 物の貸借 4 不法行為 5 時効	20	教科書	・契約全般について、また雇用 契約、売買契約、不動産賃貸契 約など企業活動における契約に ついて、法規と関連付けて理解 する。 ・契約当事者の不法行為や時効 の各関係について、企業活動に おける具体的な事例を用いて、 法規と関係付けて理解する。	20	授業の取り組み 授業時の課題 定期考查 課題の提出
11 12	V 企業責任と法規 1 法令遵守と説明責任 2 労働者の保護 3 消費者の保護	12	教科書	・法令遵守(コンプライアンス) と説明責任(アカウンタビリテ ィ)、企業統治(コーポレー ト・ガバナンス)の意義と重 要性について理解する。 ・労働時間、休日、休暇、就業 規則及び労働災害に関する規定 と考え方を身につける。 ・消費者基本法、消費者契約法、 不当景品類及び不当表示防止 法、特定商取引法など消費者の 保護に関する法規の概要につ いて理解する。 ・個人情報保護法、不正アクセ ス禁止法、不正競争防止法など 企業が扱う情報の保護に関係す る法規の概要について理解す る。	12	授業の取り組み 授業時の課題 定期考查 課題の提出
1 2 3	VII 税と法規 1 税の種類と法人の納税 義務 2 法人税の申告と納付 3 消費税の申告と納付	10	教科書	・国税、地方税、直接税、間接 税など税の種類と分類、法人税、 法人住民税など法人に対する税 の概要について理解する。 ・消費税の仕組み、課税事業者 と免税事業者の違い、課税対象、 税額計算の考え方、消費税の申 告・納税の仕組み及び申告書の 作成など手続の概要について法 規と関連付けて理解する。	10	

計 70 時間 (50 分授業)

7 課題・提出物等

授業時の課題 等

8 担当者からの一言

社会生活を送るうえで必要とされる基礎的・基本的な法規を学びます。「法」と聞くと難しく感じるかもしれませんが、まずは自分の生活する社会に興味を持ってください。

教科（科目）	商業 （課題研究：秘書検定講座）	単位数	2 単位	学年（コース）	3 学年
使用教科書	なし				
副教材等	秘書検定2級、3級パーフェクトマスター など				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	～上越地域唯一の商業を専門とした高等学校として、生徒の多様な進路に対応した教育活動を行います～ ①1年生では基礎学力の充実に努めるとともに、積極的に将来の自分について探求する姿勢を育成します。 ②2年生では商業科目を系統的に学習することを通して、高い専門性を追求します。 ③3年生では学校の教育活動全体を通して、実社会で必要とされるビジネスマナーの習得を目指します。 ④各学年における探究的な学習活動や体験学習、教科横断的な学習により、深い学びを実践していきます。
カリキュラム・ポリシー	～このような生徒を求めています～ ①将来は自分でお店を持つなど、起業に関心がある生徒。 ②事務や販売などの仕事につくことを目指しており、そのための知識を学びたい生徒。 ③生まれ育った地域のために自分に何が出来るか考えている生徒。 ④新しいことに挑戦してみたいという積極性があり、進路希望実現のために努力を惜しまない生徒。 ⑤健康的で規則的な生活習慣をもち、ルールやマナーを守れる生徒。

2 学習目標

- ・秘書の仕事（秘書技能）を学ぶことで、社会常識と社会性を身につける。
- ・主体的に生きていく力と課題を解決する能力を身に付ける。

3 指導の重点

- ・秘書に関する技術と知識を学習する。
- ・生徒自身が目標と課題を設定し、目標と課題を設定し、主体的にその達成と克服を図らせる。

4 評価の観点の趣旨

知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
社会に出て働く人なら誰でも備えておかなければならない、基礎・基本的な知識・技術を身に付け、理解を深めるために問題演習に努めている。	基礎的基本的な知識と技術を基に、社会人としての判断力と意思決定能力を身に付けている。「社会常識」と「社会性」を身に付けている。	ビジネスマナーに関する諸課題について関心をもち、その改善・向上を目指して主体的に取り組もうとするとともに、実践的な態度を身に付けている。

5 評価方法

評価方法	評価は次の観点から行います。		
	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	以上の観点を踏まえ、 ・定期考査の分析 ・提出物の内容 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・定期考査の分析 ・授業中の取り組み（発言・発表）の観察 ・提出物の内容 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・授業中の取り組み（発言・発表）の観察 ・提出物の内容 などから、評価します。
	内容のまとまりごとに、各観点 「A：十分満足できる」「B：概ね満足できる」「C：努力を要する」で評価します。 内容のまとまりごとの評価規準は授業で説明します。		

6 学習計画

月	単元名	学習活動（指導内容）	時間	評価方法
4	1 必要とされる資質	(1) 秘書的な仕事を行うについて備えるべき要件	1 6	学習態度
5		(1) 心構え (2) 求められる能力と守秘義務	9	提出物
6	2 職務知識	(1) 機能と役割 (2) 秘書の職務		単元別テスト
7	3 一般常識	(1) 企業の基礎知識 (2) 企業組織の活動	7	などによる総合評価
8		(3) 社会常識		
9	4 マナー・接遇	(1) 話し方・聞き方 (2) 話し方・聞き方の応用	1 7	
10		(3) 敬語と接遇 (4) 電話対応		
11		(5) 来客対応 (6) 交際業務		
12	V 技術	(1) 会議の役割 (2) ビジネス文書	2 1	
1		(3) 文書の取り扱い (4) 文書・資料管理		
2		(5) 日程管理 (6) 環境整備		
3				

計 70 時間（50 分授業）

7 課題・提出物等

- ・毎時間の活動日誌
- ・学期ごとの計画と反省
- ・実習プリント、レポート

8 担当者からの一言

秘書講座は人柄育成を目指しています。「言葉遣い」「話し方」「態度」「振る舞い」などの「人柄の要素」は知識だけではできないことです。ビジネスマナーについては、普段の生活から意識して行動し、習慣化することを心掛けましょう。

教科(科目)	商業（課題研究：日商簿記検定）	単位数	2単位	学年(コース)	3学年
使用教科書	なし				
副教材等	TAC出版 簿記の教科書 日商2級 商業簿記 TAC出版 簿記の教科書 日商2級 工業簿記				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	～上越地域唯一の商業を専門とした高等学校として、生徒の多様な進路に対応した教育活動を行います～ ①1年生では基礎学力の充実に努めるとともに、積極的に将来の自分について探求する姿勢を育成します。 ②2年生では商業科目を系統的に学習することを通して、高い専門性を追求します。 ③3年生では学校の教育活動全体を通して、実社会で必要とされるビジネスマナーの習得を目指します。 ④各学年における探究的な学習活動や体験学習、教科横断的な学習により、深い学びを実践していきます。
カリキュラム・ポリシー	～このような生徒を求めています～ ①将来は自分でお店を持つなど、起業に関心がある生徒。 ②事務や販売などの仕事につくことを目指しており、そのための知識を学びたい生徒。 ③生まれ育った地域のために自分に何が出来るか考えている生徒。 ④新しいことに挑戦してみたいという積極性があり、進路希望実現のために努力を惜しまない生徒。 ⑤健康的で規則的な生活習慣をもち、ルールやマナーを守れる生徒。

2 学習目標

- ・日商簿記検定2級について自主的に学習をする。
- ・学びを通して生涯にわたって自主的に学習する姿勢を養う。
- ・生徒自身が目標と課題を設定し、その達成や克服のためどのような手段や方法があるのか等を主体的に考え、実行できる力を身に付ける。

3 指導の重点

- ・日商簿記検定2級の範囲について、基本問題等を通して趣旨と目的を理解する。
- ・簿記という分野について深く学び、今後の学習につなげられるように興味を持たせる。

4 評価の観点の趣旨

知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
簿記、会計の知識を十分に活かし、正しい会計処理、記帳ができる。	簿記、会計の知識を十分に活かし、財務諸表の作成や会計の分析をおこなうことができる。	授業に積極的に参加し、模擬取引やマナー学習を通じて、意欲的かつ積極的に取り組んでいる。

5 評価方法

評価方法	各観点における評価方法は次のとおりです。		
	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	以上の観点を踏まえ、定期考査の結果、提出物の内容などから評価します。	以上の観点を踏まえ、定期考査の結果、授業の取り組みの観察、提出物の内容などから評価します。	以上の観点を踏まえ、学習の取り組みの観察、提出物の内容、定期考査や振り返りなどから、評価します。
	内容のまとまりごとに、各観点「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」で評価します。内容のまとまりごとの評価基準は授業で説明します。		

6 学習計画

月	単元名	授業時数 と領域	教材名	学習活動(指導内容)	時間	評価方法
4	日商簿記2級 商業簿記	1 3	副教材	・日商簿記3級の内容を理解しているかについて確認を行う。 ・商業簿記の内容を单元ごとに区切り、説明や基本問題を中心に学習を行う。	1 3	課題への取組
5						
6						
7	日商簿記2級 工業簿記	1 2	副教材	・工業簿記の内容を单元ごとに区切り、説明や基本問題を中心に学習を行う。	1 2	小テスト
8						
9						
10	日商簿記2級 模擬問題	1 2	副教材	・検定取得を目指し、模擬問題を行う。	1 2	課題への取組
11						
12						
1	日商簿記2級 模擬問題	2 0	副教材	・検定取得を目指し、模擬問題を行う。	2 0	課題への取組
2						
3						

計 70 時間 (50 分授業)

7 課題・提出物等

活動日誌、振り返りシート、実習プリント、問題集

8 担当者からの一言

日商簿記2級は今までに学習した簿記、会計、原価計算の知識を広く用います。2級の取得を目指して一生懸命に取り組みましょう。

教科(科目)	商業 (課題研究：ビジネス文書講座)	単位数	3単位	学年(コース)	3学年
使用教科書	なし				
副教材等	日本語ワープロ検定試験問題集、硬筆書写技能検定合格のポイント など				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	～上越地域唯一の商業を専門とした高等学校として、生徒の多様な進路に対応した教育活動を行います～ ①1年生では基礎学力の充実に努めるとともに、積極的に将来の自分について探求する姿勢を育成します。 ②2年生では商業科目を系統的に学習することを通して、高い専門性を追求します。 ③3年生では学校の教育活動全体を通して、実社会で必要とされるビジネスマナーの習得を目指します。 ④各学年における探究的な学習活動や体験学習、教科横断的な学習により、深い学びを実践していきます。
カリキュラム・ポリシー	～このような生徒を求めています～ ①将来は自分でお店を持つなど、起業に関心がある生徒。 ②事務や販売などの仕事につくことを目指しており、そのための知識を学びたい生徒。 ③生まれ育った地域のために自分に何が出来るか考えている生徒。 ④新しいことに挑戦してみたいという積極性があり、進路希望実現のために努力を惜しまない生徒。 ⑤健康的で規則的な生活習慣をもち、ルールやマナーを守れる生徒。

2 学習目標

日商PC検定（文書作成）テキストを使用し入力練習を行う。
ペン習字を学習し、きれいな字で履歴書、出願書類を書く。

3 指導の重点

- ・コンピュータの基礎知識や文書処理ソフトウェアや表計算ソフトウェアなど各種ソフトウェアの操作技術の習得を目指します。
- ・習得した技術を用いてビジネスに関する情報を収集・処理・分析し、表現する知識と技術の習得を目指します。
- ・ペン習字を学習し、手書きによる文書作成（案内文書含む）能力を養う。

4 評価の観点の趣旨

知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
関心をもち、その意義や役割の理解および諸問題の探求を目指して意欲的に取り組むことができる。	諸問題を的確に把握し、自ら思考を深め、基礎的・基本的な知識と技術を活用して適切に判断し、創意工夫する能力が身についている。	基本的な知識と技術を身に付け、ビジネスの諸活動の意義や役割を理解している。

5 評価方法

評価方法	各観点における評価方法は次のとおりです。		
	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	以上の観点を踏まえ、 ・定期考査の分析 ・提出物の内容 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・定期考査の分析 ・授業中の取り組み（発言・発表） の観察 ・提出物の内容 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・授業中の取り組み（発言・発表） の観察 ・検定結果 ・提出物の内容 などから、評価します。
	内容のまとまりごとに、各観点 「A：十分満足できる」「B：概ね満足できる」「C：努力を要する」で評価します。 内容のまとまりごとの評価規準は授業で説明します。		

6 学習計画

月	単元名	授業時数 と領域	教材名	学習活動(指導内容)	時間	評価方法
4 5 6 7 8 9 10 11 12 1 2 3	硬筆書写	3 5	硬筆書写 技能検定 問題集	各自の進路に合わせ ・履歴書 ・志望理由書 ・出願書類 の練習を行う。	3 5	定期考査 課題の提出
	ビジネス文書の 作成	3 5	日本語ワー プロ検 定試験問 題集	ビジネス文書の利用に関する 知識と技術を習得させ、文書の構 成、構成要素の配置、文書作成の 要領について理解する。 基本的な文書作成から表やグラ フなどを含む応用的な文書の作 成に関する知識と技術について 理解する。	3 5	検定試験 課題の提出

計 70 時間 (50 分授業)

7 課題・提出物等

- ・学期ごとの計画と反省
- ・実習プリント、レポート

8 担当者からの一言

毎日・毎時間の積み重ねが大切です。コツコツ真面目に取り組みましょう。

教科(科目)	商業（課題研究） I Tパスポート	単位数	2単位	学年(コース)	3学年
使用教科書	なし				
副教材等	技術評論社『栢木先生の I Tパスポート教室』インプレス『 I Tパスポート過去問題集』				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	～上越地域唯一の商業を専門とした高等学校として、生徒の多様な進路に対応した教育活動を行います～ ①1年生では基礎学力の充実に努めるとともに、積極的に将来の自分について探求する姿勢を育成します。 ②2年生では商業科目を系統的に学習することを通して、高い専門性を追求します。 ③3年生では学校の教育活動全体を通して、実社会で必要とされるビジネスマナーの習得を目指します。 ④各学年における探究的な学習活動や体験学習、教科横断的な学習により、深い学びを実践していきます。
カリキュラム・ポリシー	～このような生徒を求めています～ ①将来は自分でお店を持つなど、起業に関心がある生徒。 ②事務や販売などの仕事につくことを目指しており、そのための知識を学びたい生徒。 ③生まれ育った地域のために自分に何が出来るか考えている生徒。 ④新しいことに挑戦してみたいという積極性があり、進路希望実現のために努力を惜しまない生徒。 ⑤健康的で規則的な生活習慣をもち、ルールやマナーを守れる生徒。

2 学習目標

iパスは、ITを利活用するすべての社会人・これから社会人となる学生が備えておくべきITに関する基礎的な知識が証明できる国家試験です。 具体的には、新しい技術（AI、ビッグデータ、IoT など）や新しい手法（アジャイルなど）の概要に関する知識をはじめ、経営全般（経営戦略、マーケティング、財務、法務など）の知識、IT（セキュリティ、ネットワークなど）の知識、プロジェクトマネジメントの知識など幅広い分野の総合的知識を問う試験です。 ITを正しく理解し、業務に効果的にITを利活用することのできる“IT力”を身に付け、iパスの合格を目指しましょう。

3 指導の重点

・iパス試験の出題範囲はとて広く、テクノロジ系、ストラテジ系、マネジメント系のすべてのジャンルで30%以上得点できないと合格できません。不得意分野を出さずに多くの過去問題などに取り組めるかが合格への鍵となります。

4 評価の観点の趣旨

知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
企業活動におけるITの活用について実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けている。	企業活動におけるITの活用に関する課題を発見し、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に解決しようとしている。	企業活動を改善する力の向上を目指して自ら学び、企業活動におけるITの活用に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。

5 評価方法

評価方法	各観点における評価方法は次のとおりです。		
	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	以上の観点を踏まえ、 ・ペーパーテスト ・ノートなどの提出物 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・ペーパーテスト ・ノートなどの提出物 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・ノートなどの提出物 ・過去問題への取り組み などから、評価します。
	内容のまとまりごとに、各観点「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」で評価します。内容のまとまりごとの評価基準は授業で説明します。		

6 学習計画

月	単 元 名	授業時数 と領域	教材名	学習活動(指導内容)	時 間	評価方法
4	ス トラ テ ジ 系	5	企業活動	・企業活動や経営管理に関する基本的な考え方を理解する。	5	ノート (記述の点検)
5		5	法務	・知的財産権にはどのような種類があり、何が法律で守られ、どのような行為が違法に当たるのかの基本を理解する。	5	
6		5	経営戦略	・代表的な経営情報分析手法に関する基本的な考え方を理解する。	5	
7		5	システム戦略	・情報システム戦略の意義と目的、戦略目標の考え方を理解する。 <定期テスト>	5	
7	テ ク ノ ロ ジ 系	6	アルゴリズムとプログラミング	・基数、集合の基本的な考え方を理解する。 ・アルゴリズムの基本的な考え方と、擬似言語などによる表現方法、プログラミングの目的を理解する。	6	ノート (記述の点検)
9		6	ハードウェア	・コンピュータの種類と特徴を理解する。	6	
		6	ソフトウェア	・入出力装置の種類と特徴を理解する。 ・オペレーティングシステムの必要性、機能、種類を理解する。	6	
11		6	マルチメディア	・コンピュータにおける文字、音声、画像などの仕組みを理解する。	6	
12		6	データベース	・情報の圧縮と伸張の特徴を理解する。 ・データベース及びデータベース管理システムの意義、目的、考え方を理解する。 <定期テスト>	6	
1	マ ネ ジ メ ン ト 系	5	ネットワーク	・ネットワークを構築するための接続装置の役割を理解する。 ・IoT ネットワークに関する構成や通信方式を理解する。	5	ノート (記述の点検)
2		5	セキュリティ	・ネットワーク社会において安全に活動するという観点で、情報セキュリティの基本について理解する。	5	
3		5	開発技術	・システム開発のプロセスの基本的な流れを理解する。	5	
		5	マネジメント	・プロジェクトマネジメント、サービスマネジメントの意義、目的及び考え方を理解する。 <定期テスト>	5	

計 70 時間 (50 分授業)

7 課題・提出物等

- ・学期ごとにノートを提出し、課題に対しての取り組み状況を確認する。

8 担当者からの一言

最初は合格を目指してやる気満々だった人も、幅広い出題範囲のため徐々にモチベーションがなくなり、途中挫折をする人が多いと聞きます。さらに、iパスの試験はC B T方式で自分の学習状況に合わせて試験日が選べる反面、「いつでも受験できる」と学習を先送りにしがちです(松木も経験あり)。
とにかく強い意志を持ち、短い時間でいいので学習時間を作り、国家資格の合格を目指しましょう！

(担当：松木)

教科(科目)	商業（課題研究：調査研究）	単位数	2単位	学年(コース)	3学年
使用教科書	なし				
副教材等	なし				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	～上越地域唯一の商業を専門とした高等学校として、生徒の多様な進路に対応した教育活動を行います～ ①1年生では基礎学力の充実に努めるとともに、積極的に将来の自分について探求する姿勢を育成します。 ②2年生では商業科目を系統的に学習することを通して、高い専門性を追求します。 ③3年生では学校の教育活動全体を通して、実社会で必要とされるビジネスマナーの習得を目指します。 ④各学年における探究的な学習活動や体験学習、教科横断的な学習により、深い学びを実践していきます。
カリキュラム・ポリシー	～このような生徒を求めています～ ①将来は自分でお店を持つなど、起業に関心がある生徒。 ②事務や販売などの仕事につくことを目指しており、そのための知識を学びたい生徒。 ③生まれ育った地域のために自分に何が出来るか考えている生徒。 ④新しいことに挑戦してみたいという積極性があり、進路希望実現のために努力を惜しまない生徒。 ⑤健康的で規則的な生活習慣をもち、ルールやマナーを守れる生徒。

2 学習目標

商業に関する課題を設定し、その課題の解決を図る学習を通して、専門的な知識と技術の深化、総合化を図るとともに、問題解決の能力や自発的、創造的な学習態度を育てる。

3 指導の重点

自主性の育成

4 評価の観点の趣旨

知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・高校生に分かりやすい内容の企業紹介動画を制作することができる	・企業とのやり取りにおいて、適切な表現で関わり、円滑なやり取りができる。 ・動画制作に対して、問題点や打開策を見つけ、具体的に必要な案を考えることができる。	・取材企業とのやり取りにおいて、積極的に行動することができる。 ・取材企業を積極的に調べ、グループ内で積極的に発言することができる。

5 評価方法

評 価 方 法	各観点における評価方法は次のとおりです。		
	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	以上の観点を踏まえ、定期発表の結果、提出物の内容などから評価します。	以上の観点を踏まえ、定期発表の結果、授業の取り組みの観察、提出物の内容などから評価します。	以上の観点を踏まえ、学習の取り組みの観察、提出物の内容、定期発表や振り返りなどから、評価します。
	内容のまとまりごとに、各観点「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」で評価します。内容のまとまりごとの評価基準は授業で説明します。		

6 学習計画

月	単元名	授業時数 と領域	教材名	学習活動(指導内容)	時間	評価方法
4						
5				テーマ選択	5	レポート
6						
7				テーマ決定にむけ、自己とのかかわりを考える。	10	レポート
8						
9				テーマ決定後、コンテンツ収集	20	経過報告
10						
11				商業高校生として企業とのかかわりを考え、紹介動画を考え作成。	35	発表内容
12						
1						
2						
3						

計 70 時間 (50 分授業)

7 課題・提出物等

活動日誌、振り返りシート、レポート 作成動画

8 担当者からの一言

みんなのセンスを楽しみにしています。

教科(科目)	芸術(音楽Ⅰ)	単位数	2単位	学年(コース)	3学年芸術選択
使用教科書	教育出版『音楽Ⅰ 改訂版 Tutti+』				
副教材等	なし				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	～上越地域唯一の商業を専門とした高等学校として、生徒の多様な進路に対応した教育活動を行います～ ①1年生では基礎学力の充実に努めるとともに、積極的に将来の自分について探求する姿勢を育成します。 ②2年生では商業科目を系統的に学習することを通して、高い専門性を追求します。 ③3年生では学校の教育活動全体を通して、実社会で必要とされるビジネスマナーの習得を目指します。 ④各学年における探究的な学習活動や体験学習、教科横断的な学習により、深い学びを実践していきます。
カリキュラム・ポリシー	～このような生徒を求めています～ ①将来は自分でお店を持つなど、起業に関心がある生徒。 ②事務や販売などの仕事につくことを目指しており、そのための知識を学びたい生徒。 ③生まれ育った地域のために自分に何ができるか考えている生徒。 ④新しいことに挑戦してみたいという積極性があり、進路希望実現のために努力を惜しまない生徒。 ⑤健康的で規則的な生活習慣をもち、ルールやマナーを守れる生徒。

2 学習目標

音楽の幅広い活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と幅広く関わる資質・能力を育成することを目指す。

3 指導の重点

- (1) 曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技術を身に付けるようにする。
- (2) 自己のイメージをもって音楽表現を創意工夫することや、音楽を評価しながら良さや美しさを自ら味わって聴くことができるようにする。
- (3) 主体的・協働的に音楽の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育むとともに感性を高め、音楽文化に親しみ、音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにしていく態度を養う。

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解している。 創意工夫などを生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付け、歌唱、器楽、創作などで表している。	音楽を形作っている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きを感受しながら、知覚したこと感受したこととの関わりについて考え、どのように表すかについて、表現意図をもったり、音楽を評価しながら、良さや美しさを自ら味わって聴いたりしている。	主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。

5 評価方法

評価方法	評価は次の観点から行います。		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	以上の観点を踏まえ、 ・授業中の実技テスト等の分析 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・授業中の実技テストの分析 ・提出物の内容 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・授業への取り組み方 ・課題チェックへの取り組む姿勢 などから、評価します。
	内容のまとまりごとに、各観点 「A:十分満足できる」、「B:おおむね満足できる」、「C:努力を要する」 で評価します。 内容のまとまりごとの評価基準は授業で説明します。		

6 学習計画

月	単元名	授業時数 と領域	教材名	学習活動（指導内容）	時間	評価方法
4	歌唱	8	教科書	○愛唱歌を歌う ・音程を正確に歌う ・リズムを性格に歌う	8	①授業への取り組み方 (態度・遅刻・忘れ物等) ②毎授業の課題チェックの成績と取り組み ③実技テスト
5	器楽	8	リコーダー	○リコーダーの基本奏法の確認 ・正確な視奏 ・メロディ(音程)の確認 ・音色の美しさへの工夫	8	
6				○鑑賞 日本の伝統音楽等	8	
7	鑑賞	8			8	
8	楽曲 創作	2	教科書	○音楽の基礎知識	2	
		4		○リズム・メロディの部分創作 ・「コンコーネ 50 より NO.1」を編曲する	4	
9	歌唱	10	教科書	○視唱力の伸長 ・旋律の動きとリズムに注意して歌う ・二部合唱の楽しさを味わう	10	
10	器楽	10	リコーダー	○視奏力の伸長 ・リコーダーアンサンブルで重奏の響きを味わう	10	
11				○鑑賞 ミュージカル映画等	8	
12	鑑賞	8			8	
1	楽曲 創作	2	教科書	○音楽の基礎知識	2	
	歌唱	4		○8小節メロディ(歌詞付き)作曲	4	
	器楽	6	リコーダー	○「イタリア古典楽曲」の旋律の美しさを表現する	6	
2	まとめ			○まとめ		
3						

計 70 時間 (50 分授業)

7 課題・提出物等

毎授業、実技の課題チェックを行う

8 担当者からの一言

課題に対して、得意・不得意にかかわらず、粘り強く丁寧に取り組んでほしい。

教科(科目)	芸術(美術Ⅰ)	単位数	2 単位	学年(コース)	3 学年芸術選択
使用教科書	光村図書『美Ⅰ』				
副教材等					

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	～上越地域唯一の商業を専門とした高等学校として、生徒の多様な進路に対応した教育活動を行います～ ① 1年生では基礎学力の充実に努めるとともに、積極的に将来の自分について探求する姿勢を育成します。 ② 2年生では商業科目を系統的に学習することを通して、高い専門性を追求します。 ③ 3年生では学校のエデュエーション全体を通して、実社会で必要とされるビジネスマナーの習得を目指します。 ④ 各学年における探究的な学習活動や体験学習、教科横断的な学習により、深い学びを実践していきます。
カリキュラム・ポリシー	～このような生徒を求めています～ ① 将来は自分でお店を持つなど、起業に関心がある生徒。 ② 事務や販売などの仕事につくことを目指しており、そのための知識を学びたい生徒。 ③ 生まれ育った地域のために自分に何が出来るか考えている生徒。 ④ 新しいことに挑戦してみたいという積極性があり、進路希望実現のために努力を惜しまない生徒。 ⑤ 健康的で規則的な生活習慣をもち、ルールやマナーを守れる生徒。

2 学習目標

美術の幅広い創造活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、美的体験を重ね、生活や社会の中の美術や美術文化と幅広く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めるとともに、意図に応じて表現方法を創意工夫し、創造的に表すことができるようにする。 (2) 造形的な良さや美しさ、表現の意図と創意工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生成し創造的に発想し構想を練ったり、価値意識をもって美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。 (3) 主体的に美術の幅広い創造活動に取り組み、生涯にわたり美術を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、美術文化に親しみ、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。

3 指導の重点

(1) 絵画・彫刻、デザインの技能習得から指導し、作品鑑賞における表現の習得も目指す。 (2) 美術や美術文化の良さを感じ取り、意図に応じて創意工夫し、美術に対する見方を深めることができるようにする。 (3) 主体的に授業に取り組み、生涯にわたり美術を愛好し、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めている。 ・意図に応じて表現方法を創意工夫し、創造的に表現している。	造形的なよさや美しさ、表現の意図と創意工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生成し創造的に発想し構想を練ったり、価値意識をもって美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりしている。	主体的に美術の幅広い創造活動に取り組もうとしている。

5 評価方法

評	各観点における評価方法は次のとおりです。
---	----------------------

評価方法	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	以上の観点を踏まえ、知識を理解して技能に生かされているか、提出された作品などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、各自表現に創意工夫がなされているか、提出された作品などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、授業に対する意識・態度など、意欲的に取り組んでいるかなどから、評価します。
	内容のまとまりごとに、各観点「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」で評価します。内容のまとまりごとの評価基準は授業で説明します。		

6 学習計画

月	単元名	授業時数と領域	教材名	学習活動(指導内容)	時間	評価方法
4	デザイン	絵画・彫刻 3 5	画用紙 絵の具	文字のデザイン	6	作品・授業態度
5	彫刻	A 表現 B 鑑賞	粘土 ヘラ	陶芸	8	
6	絵画		画用紙 絵の具	グラデーション	8	
7、8	デザイン	デザイン 2 5	色画用紙 カッター	切り絵	1 2	作品・授業態度
9	彫刻	A 表現 B 鑑賞	風船 半紙	風船を土台にした作品	8	
10	デザイン		ガラス絵の具	乾くとシールになる絵の具	7	
11	映像メディア表現	映像メディア表現 1 0	画用紙 色鉛筆	アニメーション表現	1 0	作品・授業態度
12	絵画	A 表現 B 鑑賞	画用紙 彫刻刀	木版画(多色)	8	
1	彫刻		消しゴム 彫刻刀	消しゴムはんこ	3	
2						
3						

計 70 時間(50 分授業)

7 課題・提出物等

- ・ 絵画・彫刻作品(点描・陶芸作品等)の提出
- ・ 文字のデザイン等の提出

8 担当者からの一言

- ・ 絵画・彫刻やデザイン等における技能の習得、又創意工夫された発想を期待する。
- ・ 提出された作品において、各課題の意図が理解されているか、又完成度を見たい。

教科(科目)	芸術(書道Ⅰ)	単位数	2単位	学年(コース)	3学年芸術選択
使用教科書	光村図書『書Ⅰ』				
副教材等	なし				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	～卒業までにこのような資質・能力を持つ生徒を育成します～ ①社会の発展に貢献しようとする大きな志を持って、主体的に地域の生活を創造できる能力を持つ生徒を育成します。 ②ビジネスシーンにおいて様々な他者と関わり、チームワークを重んじながら課題を発見し、解決への道筋を立てる力を備えた生徒を育成します。 ③自己を管理する力を持ち、市民としての社会的責任を自覚する勤勉な態度の生徒を育成します。 ④世界には多様な価値観があることを理解し、自分の考えを適切な言葉で表現し、コミュニケーションを図ることが出来る生徒を育成します。
カリキュラム・ポリシー	～上越地域唯一の商業を専門とした高等学校として、生徒の多様な進路に対応した教育活動を行います～ ①1年生では基礎学力の充実に努めるとともに、積極的に将来の自分について探求する姿勢を育成します。 ②2年生では商業科目を系統的に学習することを通して、高い専門性を追求します。 ③3年生では学校の教育活動全体を通して、実社会で必要とされるビジネスマナーの習得を目指します。 ④各学年における探究的な学習活動や体験学習、教科横断的な学習により、深い学びを実践していきます。

2 学習目標

書の幅広い活動を通して、書に関する見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の文字や書、書の伝統と文化と幅広く関わる資質・能力をつぎのとおりに育成することを目指す。 (1) 書の表現の方法や形式、多様性などについて幅広く理解するとともに、書写能力の向上を図り、書の伝統に基づき、効果的に表現するための基礎的な技能を身に付けるようにする。 (2) 書のよさや美しさを感じ、意図に基づいて構想し表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書の美を味わい捉えたりすることができるようにする。 (3) 主体的に書の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり書を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、書の伝統と文化に親しみ、書を通して心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。

3 指導の重点

(1) 基本的な書写の用筆習得から指導し、やがて伝統に基づいて効果的に表現するための技能の習得を目指す。 (2) 書のよさや美しさを感じ取り、意図に基づいて構想し表現を工夫したり、書の美を味わうことができるようにする。 (3) 主体的に授業に取り組み、生涯にわたり書を愛好する心情を育み、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
- 書の表現の方法や形式、書表現の多様性について幅広く理解している。 - 書写能力を向上させるとともに、書の伝統に基づき、作品を効果的に表現するための基礎的な技能を身に付け、表している。	書のよさや美しさを感じ、意図に基づいて構想し表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書の美を味わい捉えたりしている。	- 主体的に書の表現及び鑑賞の幅広い活動に取り込もうとしている。 - 書を通して心豊かな生活や社会を創造していく態度を養うことができている。

5 評価方法

評価は次の観点から行います。			
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価方法	上記の観点を踏まえ、提出された作品、プリント等から知識を理解して技能に生かされているかなどから評価します。	上記の観点を踏まえ、提出された作品から各自なりの表現に工夫がなされているかなどから評価します。	上記の観点を踏まえ、授業に対する意識・態度などを意欲的に取り組んでいるかなどから評価します。
	内容のまとまりごとに、各観点 「A:十分満足できる」、「B:おおむね満足できる」、「C:努力を要する」 で評価します。 内容のまとまりごとの評価基準は授業で説明します。		

6 学習計画

月	単元名	授業時数と 領域	教材名	学習活動（指導内容）	時 間	評価方法
4	書写から書道へ	2	教科書	国語的要素の書写と芸術としての書道の違いについて学ぶ	2	作品・授業態度
4 5 6 7 8	漢字 【楷書】 【小楷】	1 8 A 表現 B 鑑賞 6	教科書 半紙 墨 大筆・小筆	漢字の楷書を主に唐時代の四大家及び六朝時代の法帖の臨書と特徴の比較 般若心経を写経し、小筆の用筆を学習します。	18 6	作品・授業態度
9 10	【刻字】 【行書】	1 0 A 表現 B 鑑賞 4	彩玉ボード (彫刻刀) 教科書	楷書体による刻字 「蘭亭序」を学び、楷書との比較をし、行書の特徴を理解する。	10 4	作品・授業態度
11	【隸書】	8 A 表現 B 鑑賞		「曹全碑」を学び、隸書の筆法・用筆を理解する	8	作品・授業態度
12 1 2 3	【篆書】 【仮名の書】 【漢字仮名交じりの書】	1 2 A 表現 B 鑑賞 5 5 A 表現 B 鑑賞	教科書 小筆 画仙紙	篆刻の用具とその使い方を理解する。 白文印で4文字の姓名印を制作する。 かなの基本(単体, 変体かな, 連綿など) 近代詩文による創作作品の作成 各自の揮毫したい文章を構成や表現を考え、作品を完成させる。	12 5 5	作品・授業態度

計 70 時間 (50 分授業)

7 課題・提出物等

- ・授業中の臨書作品（形臨・背臨・倣書）
- ・大きさの違った画仙紙に揮毫した作品
- ・刻字作品・篆刻作品の提出

8 担当者からの一言

- ・書Ⅰでは、書写から書道へと移行するにあたり違いを明白にし、基礎的概念を理解するようにしたい。依って、書体と書風の区別をしっかりと習得して欲しい。
- ・授業で行う臨書作品・創作作品など様々な形態での課題作品には、各自が納得した作品の提出が望ましい。
- ・提出された作品に課題となる用筆・用法が習得されているか、作品としての完成度をみたいと思います。

教科(科目)	国語（古典探究）	単位数	3単位	学年(コース)	3学年 A選択
使用教科書	東京書籍『新編古典探究』				
副教材等	東京書籍『新編古典探究学習課題ノート』				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	～上越地域唯一の商業を専門とした高等学校として、生徒の多様な進路に対応した教育活動を行います～ ①1年生では基礎学力の充実に努めるとともに、積極的に将来の自分について探求する姿勢を育成します。 ②2年生では商業科目を系統的に学習することを通して、高い専門性を追求します。 ③3年生では学校の教育活動全体を通して、実社会で必要とされるビジネスマナーの習得を目指します。 ④各学年における探究的な学習活動や体験学習、教科横断的な学習により、深い学びを実践していきます。
カリキュラム・ポリシー	～このような生徒を求めています～ ①将来は自分でお店を持つなど、起業に関心がある生徒。 ②事務や販売などの仕事につくことを目指しており、そのための知識を学びたい生徒。 ③生まれ育った地域のために自分に何が出来るか考えている生徒。 ④新しいことに挑戦してみたいという積極性があり、進路希望実現のために努力を惜しまない生徒。 ⑤健康的で規則的な生活習慣をもち、ルールやマナーを守る生徒。

2 学習目標

古典としての古文と漢文を読む能力を養うとともに、ものの見方、感じ方、考え方を広くし、古典についての理解や関心を深めることによって人生を豊かにする態度を育てる。生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の伝統的な言語文化に対する理解を深めることができるようにする。

3 指導の重点

- 構成や展開に即して文章の内容を的確に捉える力を身につけさせる。
- 古典を読み、人間、社会、自然に対する思想や感情を的確にとらえ、ものの見方、感じ方、考え方を豊かにする

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を見に付けるとともに、我が国の伝統的な言語文化に対する理解を深めることができる。	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、古典などを通じた先人のものの見方、感じ方、考え方との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができる。	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする力を養うことができる。

5 評価方法

評価方法	各観点における評価方法は次のとおりです。		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	以上の観点を踏まえ、 ・定期考査 ・レポートやワークシート等の内容 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・定期考査 ・レポートやワークシート等の内容 ・振り返りシートの記述 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・授業中の取り組み ・レポートやワークシート等の内容 ・振り返りシートの記述 などから、評価します。
	内容のまとまりごとに、各観点「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」で評価します。内容のまとまりごとの評価基準は授業で説明します。		

6 学習計画

月	単元名	授業時数 と領域	教材名	学習活動(指導内容)	時間	評価方法
<u>4</u>	説話に親しむ	5 読むこと	・宇治拾遺物語「小野篁、広才のこと」 ・十訓抄「大江山の歌」	・古典の文章に慣れるとともに、現代に通じる話のおもしろさや人間描写の巧みさを知る。 ・古典の作品や文章に表れている、言葉の響きやリズム、修辞などの表現の特色について理解を深める。	5	小テスト等 ワークシートの確認、分析
		5 読むこと			5	成果物の内容 ワークシートの確認
<u>5</u>	故事と小話	5 読むこと	・蛇足 ・断腸	・古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深める。 ・文章の種類を踏まえ、構成や展開などを的確に捉える。	5	定期考査 成果物の内容 ワークシートの確認
		5 読むこと			5	成果物の内容 ワークシートの確認、分析
<u>6</u>	随筆を読む	5 読むこと	・徒然草「丹波に出雲といふ所あり」	・必要に応じて書き手の考えや目的、意図を捉えて内容を解釈するとともに、文章の構成や展開、表現の特色について評価する。	5	成果物の内容 ワークシートの確認、分析
		5 読むこと			5	成果物の内容 ワークシートの確認
<u>7</u>	唐詩と文	5 読むこと	・方丈記「ゆく河の流れ」 ・唐詩	・古典の作品や文章などに表れているものの見方、感じ方、考え方を踏まえ、人間、社会、自然などに対する自分の考えを広げたり深めたりする。 ・さまざまな唐詩を読み味わい、学習課題に沿って、言語感覚や想像力を豊かにしようとしている。	5	定期考査 小テスト等 ワークシートの確認、分析
		5 読むこと			5	成果物の内容 ワークシートの確認
<u>8</u> <u>9</u>	作り物語を読む	5 読むこと	竹取物語「天の羽衣」	・本文を正しく音読する。 ・作者は「伯楽」と「千里馬(名馬)」の比喻によって何を主張しようとしたのか考える。 ・「雑説」の内容について、現代に通じる点を考え、話し合う。	5	成果物の内容 ワークシートの確認
		5 読むこと			5	成果物の内容 ワークシートの確認
<u>8</u> <u>9</u>	史記を読む	5 読むこと	史記「四面楚歌」「項王自刎」	・作り物語の内容を叙述に即して読み取り、そこに表れた人々の思いを捉える。 ・登場人物の行動や心情、起こった出来事などを捉え、感じたことを話し合う。 ・軍記物語の特徴をおさえる。特に和漢混交文体の韻律や特殊な語彙に注意して、正しく内容を理解する。	5	小テスト等 ワークシートの確認、分析
		5 読むこと			5	果物の内容 ワークシートの確認
<u>8</u> <u>9</u>	軍記物を味わう	5 読むこと	平家物語「壇の浦の合戦」	・諸行無常・盛者必衰の思想を作品がどのように具体化しているかをおさえ、平家の運命を考える。	5	果物の内容 ワークシートの確認
		5 読むこと			5	果物の内容 ワークシートの確認

11	歴史物語を読む	5 読むこと	大鏡「道真の左遷」	・登場人物を確認する。 ・帝の処置の厳しさと、「東風吹かば…」の歌に表れた道真の心情を読み取る。	5	定期考査 小テスト等 ワークシートの確認、分析 成果物の内容
		4 言語活動	道真伝説を調べる	古典に登場する人物をきっかけとして、自ら課題を設定して調べ、課題を解決する力を養う。	4	ワークシートの確認
	小説を読む	6 読むこと	十八史略「鼓腹撃壤」	・話の展開や内容のおもしろさを味わい、さまざまな人間の考え方を比較する。	6	定期考査 成果物の内容 ワークシートの確認
12		5 読むこと	「燕雀安知鴻鵠之志哉」	・登場人物の言動を確認し、その人柄を探る。 ・疑問形・二重否定・使役形・受身形・仮定形・反語形の各句法についてまとめる。	5	成果物の内容 ワークシートの確認、分析
	作り物語を味わう	5 読むこと	源氏物語「若紫」	・場面や人物の設定に着目しながら、登場人物の行動や心情を捉える。 ・作り物語の内容を的確に読み取る。	5	成果物の内容 ワークシートの確認
1	儒家と道家	5 読むこと	論語	・古代中国のさまざまな思想を比較し、人間の在り方について討論する。	5	定期考査 ワークシートの確認、分析
2	俳諧に親しむ	5 読むこと	近世俳句抄 芭蕉・蕪村・一茶	・発句に読み込まれた情景や心情を捉え、言語文化についての理解を深める。	5	成果物の内容 ワークシートの確認
	日本の漢詩文	4 読むこと	「菅家後集」	・表現豊かな詩情を味わい、日本文化と中国文化の関係について考える。	4	成果物の内容 ワークシートの確認
		4 読むこと	「子規全集」	・日本人の漢文叙述による歴史上の逸話を通して、名将二人の魅力に触れる。	4	成果物の内容 ワークシートの確認
4 読むこと		「日本外史」		4	成果物の内容 ワークシートの確認	
3	伝承の世界	3 読むこと	古事記「倭建命」	・日本神話を尋ね、『古事記』の成立年、編者、成立の過程などを確認する。	3	成果物の内容 ワークシートの確認

計 105 時間 (50 分授業)

7 課題・提出物等

定期的に古文単語テスト、文法テストを行う。

8 担当者からの一言

古くから読み継がれた話は、私たちが生きていくための何かを語りかけます。古典は暗記の部分も多いのですが、それ以上に、私たち日本人が培ってきた文化に触れ、驚いたり、楽しんだりしましょう。その中で、入試に対応できる力も養っていきましょう。

教科(科目)	地理歴史科（世界史探究）	単位数	3単位	学年(コース)	3学年 A選択
使用教科書	第一学習社『世界史探究』				
副教材等	浜島書店『アカデミア世界史』				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	～上越地域唯一の商業を専門とした高等学校として、生徒の多様な進路に対応した教育活動を行います～ ①1年生では基礎学力の充実に努めるとともに、積極的に将来の自分について探求する姿勢を育成します。 ②2年生では商業科目を系統的に学習することを通して、高い専門性を追求します。 ③3年生では学校の教育活動全体を通して、実社会で必要とされるビジネスマナーの習得を目指します。 ④各学年における探究的な学習活動や体験学習、教科横断的な学習により、深い学びを実践していきます。
カリキュラム・ポリシー	～このような生徒を求めています～ ①将来は自分でお店を持つなど、起業に関心がある生徒。 ②事務や販売などの仕事につくことを目指しており、そのための知識を学びたい生徒。 ③生まれ育った地域のために自分に何が出来るか考えている生徒。 ④新しいことに挑戦してみたいという積極性があり、進路希望実現のために努力を惜しまない生徒。 ⑤健康的で規則的な生活習慣をもち、ルールやマナーを守る生徒。

2 学習目標

世界の諸地域の歴史を断片的ではなく、様々なつながりの中で形成されてきた過程を知ることにより、社会的事象の歴史的な見方・考え方を育む。そして、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成する。

それらを身につけることにより、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察ができるようになる。その上で、我が国日本はもちろんのこと、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度が形成されることを目標とする

3 指導の重点

原則として講義形式の授業により、歴史的事項に対する理解や判断のための必要な知識技能を身につける事を大前提としますが、タブレット等を用いた資料や視聴覚教材をも積極的に活用します。従って、単なる受け身ではなく、授業に対しては常に「なぜこのような出来事が起きたのか」といった疑問を持ちながら前向きに取り組み、時間のつながりとしての縦軸と地域のつながりとしての横軸が自分の中でしっかりと構築できるような授業構成とします。

それを踏まえ、評価の観点としての重要な要素であるノートは、単なる板書の書き写しではなく、授業内容から理解できたことを自らのオリジナルノートとしてまとめることを重視します。

4 評価の観点的趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・授業内容を正確に理解し、教科書・用語集を読みこなし、資料を活用することができる。 ・諸課題の形成過程について考察したり、資料を読みとるために必要な知識・技能を身につけ、歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解している。	・授業で得た知識をもとに、歴史的事件の因果関係を解き明かすことができたか。また、先入観に囚われることなく、公正な立場から考察していくことができる。 ・事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現代世界とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察できる。	・授業に積極的に参加することにより歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うことができた。

5 評価方法

各観点における評価方法は次のとおりです。			
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価方法	以上の観点を踏まえ、主に定期考査・レポート・ノートのまとめ方などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、主に定期考査・レポート・ノートのまとめ方などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、主に定期考査・レポート・ノートのまとめ方などから、評価します。
	内容のまとまりごとに、各観点「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」で評価します。内容のまとまりごとの評価基準は授業で説明します。		

6 学習計画

月	単元名	授業時数 と領域	教材名	学習活動(指導内容)	時間	評価方法
---	-----	-------------	-----	------------	----	------

[illegible]

8	形成と諸地域の結合	7	洋革命 自由主義とナショナリズム 南北戦争の展開	ギリス③環大西洋革命の成果と限界 ①ウィーン体制②ナショナリズムの広がり③資本主義と社会主義 大陸国家への道、南北戦争、南北戦争と世界、工業化の進展と移民	2 2 2	課題レポート
			イギリスを中心とした自由貿易体制 国際的な分業体制と労働力の移動 アジア諸国の植民地化と諸改革	世界の工場とロンドン・シティ、パクスブリタニカ 移民の世紀、アジア系移民の拡大と移民排斥 ①西アジアの改革運動と列強②インドの植民地化③東南アジア諸国の植民地化④清の動揺と改革の模索⑤日本の近代化と東アジア	2 1	
9	第3章 帝国主義とナショナリズムの高揚	14	第2次産業革命と帝国主義諸国の抗争 アジア諸国の変革	①第2次産業革命と帝国主義の時代②帝国主義諸国の抗争と世界分割 ①帝国主義政策のもとで変貌する東アジア②アジアにおける変革と抵抗の契機	2 1	提出プリント
			第一次世界大戦とロシア革命 ヴェルサイユ・ワシントン体制の成立 アメリカ合衆国の台頭 アジア・アフリカの動向とナショナリズム	①ロシア革命とソ連の協力②大戦の終結とロシア革命の影響 ヴェルサイユ条約とドイツ、ワシントン会議、国際連盟の設立、平和公徳への取り組み アメリカ経済の発展、大量生産・大量消費の時代、アメリカ的生産様式の広がり ①東アジアのナショナリズムとその基盤②アジアのナショナリズム	2 2 2 2	
10	第4章 第二次世界大戦と諸地域の変容	21	世界恐慌と国際経済体制の変容 ヴェルサイユ・ワシントン体制の動揺 第二次世界大戦の展開と大戦後の国際秩序 冷戦とアジア諸国の独立のはじまり	農業不況と世界恐慌の波紋、ソ連の計画経済とニューディール政策、国際経済の変容とファシズムの動向 ①ファシズム勢力の対外政策②日中戦争から第二次世界大戦へ ①大戦の特徴②終戦から戦後世界の構築 ①戦後世界の分断②冷戦の波及と脱植民地化	2 2 1 2	定期考査、ノート
			アジア・アフリカ諸国の独立と独立と新興独立国の結束 先進国の経済成長と南北問題 集団安全保障と冷戦の展開 平和共存と多極化の進展	核兵器と原子力、科学技術の発達、経済や人の移動のグローバル化、紛争 アジア・アフリカの連帯、アラブ・ナショナリズムとスエズ戦争、アフリカ諸国の独立 日本と西欧の高度成長、ラテンアメリカ諸国の動き、広がる経済格差 国際連合の集団安全保障体制、軍事同盟の広がり、核兵器の拡散 米ソの平和共存と核不拡散体制、ヨーロッパの自立と緊張緩和、中ソ対立と中国の動向	2 2 2 2 2	
11	第5編 地球世界の課題 第1章 地球世界の課題への問い 第2章 冷戦と脱植民地化・第3世界の台頭	21	アメリカ合衆国の覇権の動揺 資源ナショナリズムの動きと産業構造の転換 アジア・ラテンアメリカ諸国の経済成長と南南問題 冷戦の終結と地域	ドル支配の変容、ベトナム戦争と米中接近、 石油危機と資源ナショナリズム、世界経済への影響、日本経済の動向 アジアの経済成長と民主化、ラテンアメリカの発展と停滞、南南問題 東欧革命からソ連の消滅へ、地域紛争の	2 2 2 2	定期考査、ノート
			第3章 国際秩序の変容と経済のグローバル化		2	
12						

1			紛争の頻発 経済のグローバル化	頻発と国連安保理 経済のグローバル化と相次ぐ金融危機、 新興国の台頭と米中摩擦、地域的経済統 合の広がりとなつた課題	1	課題レポート
	第4章 科学技術の 高度化と知識基盤社 会		原子力の利用や宇 宙探査などの科学 技術	核兵器と宇宙ロケット、原子力発電とそ の課題	2	
2			医療技術・バイオテ クノロジーと生命 倫理	医療技術の拡大と向上、バイオテクノ ロジーと生命倫理	2	
			人工知能と労働の あり方の変容	コンピュータと人工知能、AI時代の労 働環境	2	
			情報通信技術の発 達と知識の普及	メディアの変遷とICT、ソーシャルメ ディアと知識基盤社会	2	
	第5章 地球世界の 課題の探求	19	紛争解決や共生	①主権国家体制の形成②国際連盟の取 り組み③国際連合の取り組み④人間の 安全保障	2	定期考査、ノート
			経済発展と経済格 差の是正	①イスラームの喜捨②中世ヨーロッパ の貧困の考え方③イギリスの新旧貧困 政策④現代の国際社会における社会保 障	2	
3			科学技術の発展や 文化の変容	①コペルニクスの示した宇宙観②ダー ウィンの進化論③ノーベルのダイナマ イト発明④ゲノム編集の可能性	2	課題レポート
		4			2	

計105時間 (50分授業)

7 課題・提出物等

配布プリント、定期考査の際に提出するノート、課題レポート 等

8 担当者からの一言

2年次で履修した『歴史総合』を通して、皆さんは歴史の学習とは単に“暗記”することではないと理解できたこと
と思います。それを踏まえ、『世界史探究』ではさらに歴史上の人物、あるいは事件に注目して深掘りしていま
す。そこから現代社会の諸問題を紐解いたり日常の問題解決に役立てる力を養っていく事ができればと考えていま
す。さあ、皆さん一緒に歴史の探究を楽しみながら、未来を創造していきましょう。

教科(科目)	外国語（論理・表現Ⅱ）	単位数	3単位	学年(コース)	3学年 A選択
使用教科書	数研出版『BIG DIPPER English Logic and ExpressionⅡ』				
副教材等	数研出版『BIG DIPPER English Logic and ExpressionⅡワークブック』 文英堂『WISH 総合英語』、文英堂『WISH ENGLISH GRAMMAR21UNITS』				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	～上越地域唯一の商業を専門とした高等学校として、生徒の多様な個性に対応した教育活動を行います～ ①1年生では基礎学力の充実に努めるとともに、積極的に将来の自分について探求する姿勢を育成します。 ②2年生では商業科目を系統的に学習することを通して、高い専門性を追求します。 ③3年生では学校の教育活動全体を通して、実社会で必要とされるビジネスマナーの習得を目指します。 ④各学年における探究的な学習活動や体験学習、教科横断的な学習により、深い学びを実践していきます。
カリキュラム・ポリシー	～このような生徒を求めています～ ①将来は自分でお店を持つなど、起業に関心がある生徒。 ②事務や販売などの仕事につくことを目指しており、そのための知識を学びたい生徒。 ③生まれ育った地域のために自分に何が出来るか考えている生徒。 ④新しいことに挑戦してみたいという積極性があり、進路希望実現のために努力を惜しまない生徒。 ⑤健康的で規則的な生活習慣をもち、ルールやマナーを守れる生徒。

2 学習目標

コミュニケーションを図る資質・能力を踏まえ、「話すこと [やり取り]」、「話すこと [発表]」及び「書くこと」ことを中心に、「聞く」、「読む」ことを関連づけながら、発信能力の育成を強化することを目指す。 1. 外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの理解を深めるとともに、これらの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる技能を身に付けるようにする。 2. スピーチ、プレゼンテーション、ディベート、ディスカッション、1つの段落を書くことなどを通して、論理の構成や展開を工夫して、話したり書いたりして伝える又は伝え合うことなどができるようになる。
--

3 指導の重点

1. 与えられた話題について、基本的な語句や文を使い簡単な事柄を即興で話す。 2. 日常的・社会的な話題について、基本的な語句や文を使い、読み手や目的に応じて簡単な内容を書く。 3. 発表の仕方や発表のために必要な表現などを学習し、聞いたり読んだり経験したことに基づき、情報や考えなどをまとめ、発表する。

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
- 英文を読み取るために必要となる語彙や表現、文の構造を理解している。 - 目的や場面状況に応じた論理の構成や展開が表現をすることができる。	- 英語の表現を通して、それに対する日本語の表現の本質的な意味などに対する理解を深めようとしている。 - 日常的話題で、得られた情報を整理しながら自らの考えを形成し、論理的に適切な英語で表現することができる。	- 文化に対する理解を深めようとしている。 - 授業や与えられた課題に懸命に取り組む努力をしている。 - 学習の進め方を、自分で管理しようとしている。

5 評価方法

評価方法	各観点における評価方法は次のとおりです。		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	以上の観点を踏まえ、 - ペーパーテストやパフォーマンステストの分析 - レポートやワークシート、課題、提出物などの内容の確認 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 - ペーパーテストやパフォーマンステストの分析 - レポートやワークシート、課題、提出物などの内容の確認 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 - ペーパーテストやパフォーマンステストの分析 - レポートやワークシート、課題、提出物などの内容の確認 - 振り返りシートの記述の分析 などから、評価します。
	内容のまとまりごとに、各観点「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」で評価します。内容のまとまりごとの評価基準は授業で説明します。		

6 学習計画

月	単元名	授業時数 と領域	教材名	学習活動(指導内容)	時間	評価方法
4	School Festival A trip to Sapporo What's Your Favorite Dish? Uniforms or Casual Clothes?	12 [聞くこと] [読むこと] [書くこと] [話すこと] (発表・やり とり)	PART1 Lesson1, 2 PART2 Lesson1, 2	・現在・過去/進行形 ・未来表現 ・英語で好き嫌いを述べるこ とができる ・英語で希望・欲求を述べる ことができる	12	ワークシート (記述の点検) ワークシート (記述の確認) 活動の様子 (行動の確認)
5	My Dear Friend A Dog in a Barbershop Project Studies Program A Guitar Concert	12 [聞くこと] [読むこと] [書くこと] [話すこと] (発表・やり とり)	PART1 Lesson3, 4 PART2 Lesson3, 4	・現在完了形/現在完了進行 形 ・助動詞 ・used to / would ・助動詞+have done ・英語で賛成・反対を述べる ことができる ・英語で勧誘・招待する、期 待を述べるこ とができる	12	
中間考査						
6	Japanese Food Volunteer Activities Studying Abroad What Should I Do?	12 [聞くこと] [読むこと] [書くこと] [話すこと] (発表・やり とり)	PART1 Lesson5, 6 PART2 Lesson5, 6	・様々な受け身の表現(It is said that~/be pleased with) ・不定詞①, 意味上の主語 ・英語で計画・意図を述べる こ とができる ・英語で提案・助言を行うこ とができる	12	ワークシート (記述の点検) ワークシート (記述の確認) 活動・発表の様子 (行動の確認)
7 8	A Stage Actor I Like Singing A Korean Drama Going Bird Watching	12 [聞くこと] [読むこと] [書くこと] [話すこと] (発表・やり とり)	PART1 Lesson7, 8 PART2 Lesson7, 8, 9	・不定詞② to have+done, ~ too ~to do ・動名詞 be used to doing ・英語で程度や譲歩を述べる こ とができる ・英語で依頼・要請、許可を 求める こ とができる	12	
期末考査						
9	Cycling My New Hiking Boots Friendship Festival Returning A Magazine	12 [聞くこと] [読むこと] [書くこと] [話すこと] (発表・やり とり)	PART1 Lesson9, 10 PART2 Lesson10, 11	・分詞 SV+分詞/SVO+分詞 ・分詞構文/with+O+分詞 ・原級, 比較級を使った様々 な表 現 ・英語で感謝・喜びを述べる こ とができる ・英語で謝罪する・謝罪に応 じる こ とができる	12	ワークシート (記述の点検) ワークシート (記述の確認) 活動の様子 (行動の確認)
10	The Yangtze River My Sister's Job What Is Your Opinion?	12 [聞くこと] [読むこと] [書くこと] [話すこと] (発表・やり とり)	PART1 Lesson11, 12 PART2 Lesson12	・最上級を使った様々な表現 ・関係代名詞/前置詞+関係代 名詞 ・補足説明を導く関係代名詞 ・図表の内容について理解し よう ・英語で個人的な意見を述 べる こ とができる	12	
中間考査						
11	In Kansas City Making a Manuscript Making Your Presentation More Effective	12 [聞くこと] [読むこと] [書くこと] [話すこと] (発表・やり とり)	PART1 Lesson13 PART3 Lesson1, 2	・関係代名詞(what) ・関係副詞(when, where, why, how) ・プレゼンテーションの原稿 を作 る ・プレゼンテーションをより 効果 的なものにするには	11	ワークシート (記述の点検) ワークシート (記述の確認) 活動の様子 (行動の確認)

12	Dreaming of Space Being an Active Listener Having a Discussion	11 [聞くこと] [読むこと] [書くこと] [話すこと] (発表・やりとり)	PART1 Lesson14 PART3 Lesson3, 4	・仮定法過去/仮定法過去完了 ・プレゼンテーションを聞くときの注意点 ・ディスカッションを行う	11	
期末考査						
1	An Android Like You Speaking in Order Thinking Logically and from Different Angles	7 [聞くこと] [読むこと] [書くこと] [話すこと] (発表・やりとり)	PART1 Lesson15 PART3 Lesson5, 6	・wish+仮定法/as if+仮定法 ・if... should～ ・ディスカッションにおける適切な発言の仕方 ・ディベートを行う意義(論理的・多面的に考える力を養う)	7	ワークシート (記述の点検) ワークシート (記述の確認) 活動の様子 (行動の確認)
2 3	I Left My Smartphone Sharpening Your Thinking Ability	4 [聞くこと] [読むこと] [書くこと] [話すこと] (発表・やりとり)	PART1 Lesson16 PART3 Lesson7	・時制の一致・話法 ・ディベートを通じて思考力を磨く	4	ワークシート (記述の点検) ワークシート (記述の確認) 活動・発表の様子 (行動の確認)
学年末考査						

計 105 時間 (50 分授業)

7 課題・提出物等

小テスト、パフォーマンステスト、課題作文、授業用ワークシート、ワークブックなど

8 担当者からの一言

基本的な文法や表現を学び、自分の考えや情報などを英語で話したり書いたりする科目です。自分の考えをしっかりと持ち、積極的に英語で書いたり、人前で話したりしていきましょう。プレゼンテーションやディベート等の実践を通じて、総合的なコミュニケーション能力の習得を目指します。

教科(科目)	商業（商品開発と流通）	単位数	3単位	学年(コース)	3学年 A選択
使用教科書	実教出版『商品開発と流通』				
副教材等	実教出版『商品開発と流通 準拠問題集』				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	～上越地域唯一の商業を専門とした高等学校として、生徒の多様な進路に対応した教育活動を行います～ ①1年生では基礎学力の充実に努めるとともに、積極的に将来の自分について探求する姿勢を育成します。 ②2年生では商業科目を系統的に学習することを通して、高い専門性を追求します。 ③3年生では学校の教育活動全体を通して、実社会で必要とされるビジネスマナーの習得を目指します。 ④各学年における探究的な学習活動や体験学習、教科横断的な学習により、深い学びを実践していきます。
カリキュラム・ポリシー	～このような生徒を求めています～ ①将来は自分でお店を持つなど、起業に関心がある生徒。 ②事務や販売などの仕事につくことを目指しており、そのための知識を学びたい生徒。 ③生まれ育った地域のために自分に何が出来るか考えている生徒。 ④新しいことに挑戦してみたいという積極性があり、進路希望実現のために努力を惜しまない生徒。 ⑤健康的で規則的な生活習慣をもち、ルールやマナーを守れる生徒。

2 学習目標

商業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、商品開発と流通に必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 商品開発と流通について実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。 (2) 商品開発と流通に関する課題を発見し、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を養う。 (3) ビジネスを適切に展開する力の向上を目指して自ら学び、商品開発と流通に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

3 指導の重点

知識、技能の習得を基礎に、作品制作、グループワーク、発表などの実習を主体的に行う力を身につける。提出期限や規定通りの作品や発表ができていかなど、実務で基本となる取り組み姿勢や態度等も重視する。

4 評価の観点の趣旨

知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
商品開発と流通について実務に即して体系的・系統的に理解し、商品の企画からプロモーションまでの様々な場面で役に立つ商品開発に関する知識と、流通の立場から捉えた取引対象としての商品に関する知識を身に付けている。	商品開発と流通をはじめとした様々な知識や情報などを活用し、商品開発と流通の動向や課題を発見するとともに、ビジネスに関わる様々な立場に立って、妥当性と課題などの視点から、科学的な根拠に基づいて商品開発と流通に関する計画を立案したり、提案したりしている。	ビジネスを適切に展開する力の向上を目指して自ら商品開発と流通について学ぶ態度及び組織の一員として自己の役割を認識して当事者としての意識をもち、他者と信頼関係を構築して積極的にに関わり、商品開発と流通に関する学習活動に責任をもって取り組もうとしている。

5 評価方法

評価方法	各観点における評価方法は次のとおりです。		
	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	以上の観点を踏まえ、 ・ペーパーテスト ・ノートなどの提出物 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・ペーパーテスト ・ノートなどの提出物 ・実習の作品、ワークシート などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・ノートなどの提出物 ・実習の作品、ワークシート などから、評価します。
	内容のまとまりごとに、各観点「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」で評価します。内容のまとまりごとの評価基準は授業で説明します。		

6 学習計画

月	単元名	授業時数 と領域	教材名	学習活動(指導内容)	時間	評価方法
4 5	1章 商品開発と 流通の概要	10	1 私たちの 生活と商品 2 商品開発の 意義と手順 3 商品と流通 との関わり	・商品の成り立ちおよびその捉え方について理解する。 ・商品開発の意義、新商品の捉え方、商品ライフサイクルについて理解する。 ・流通の仕組みについて、事例を調査して考察する。 ・市場環境とマーケティングの変化、流通チャンネルの多様化について理解する。	10	ノート、ワーク（記述の点検）
	1 学期中間考査	1			1	ペーパーテスト
6 7	2章 商品の企画	14	1 環境分析と 意思決定の 準備 2 市場調査 3 商品コンセ プトの策定 4 商品企画の 提案	・商品の企画に必要な環境分析について、企業における事例と関連付けて理解する。 ・商品開発の方針を策定し、標的市場を整理して開発する商品テーマを決定することを理解する。 ・環境分析に基づいて、市場調査を行い、そこから商品の企画に関する課題を発見する。 ・商品コンセプトの内容について理解するとともに、ブレインストーミングなどの技法を用いて、商品企画につながるアイデアを考える活動を行う。 ・商品コンセプトを考察し、具体的に商品企画書の各項目をまとめる。	14	ノート、ワーク（記述の点検）
	1 学期期末考査	1			1	ペーパーテスト
8 9 10 11	3章 事業計画の立案	13	1 事業計画の 概要 2 価格計画 3 流通計画 4 プロモーション計画 5 事業計画書の作成	・商品開発と流通における事業計画について、その目的や手順について理解する。 ・競争環境や需要予測等に基づいた、価格の設定の考え方を理解する。 ・流通チャンネルの種類と特徴について理解する。 ・プロモーション計画について、企業における事例と関連付けて理解する。 ・事業の展開に必要な項目をまとめ、事業計画書を作成する。	13	ノート、ワーク（記述の点検）
	実習	4	・事業計画の立案	・作成した事業計画書を基にプレゼンテーションを行い、評価、改善を行う。	4	実習の取り組み、ワークシート、発表の様子
10 11	2 学期中間考査	1			1	ペーパーテスト
	4章 商品の開発	13	1 商品仕様と 詳細設計 2 プロト タイプ 3 商品と デザイン 4 ブランド 5 知的財産権 の登録	・商品仕様と詳細設計について、企業における事例と関連付けて理解する。 ・プロトタイプの種類と目的について理解する。 ・商品デザインの役割や要素、種類等について理解する。 ・ブランドについて、機能、構成要素等を理解する。 ・知的財産権の内容、重要性について理解する。	13	ノート、ワーク（記述の点検）

12	2学期期末考査	1			1	ペーパーテスト
	実習	4	・パッケージをデザインする	・パッケージに必要な機能、要素等について考察し、パッケージデザインを行う。	4	実習の取り組み、ワークシート、発表の様子
		4	・ポスターをデザインする	・コンピュータを用いて、ポスターのデザインを行う。	4	
1	5章 商品の販売	15	1 販売員活動 2 セールスプロモーション	・販売員活動について、プロセス、役割等を理解する。 ・セールスプロモーションについて理解し、企業における具体的な事例と関連付けて分類する。	15	ノート、ワーク（記述の点検）
2	6章 商品と流通に関わる新たな展開	15	1 商品開発の新たな展開 2 流通の新たな展開 3 感覚を活かした商品開発・流通	・顧客ニーズの多様化から、デザイン思考について企業における具体的な事例と関連付けて理解する。 ・流通の新たな展開として情報システムの変化が流通に影響を及ぼしていることを理解する。 ・感覚を活かしたプロモーション活動等を、企業における事例と関連付けて考察する。	15	
3	実習	4	・商品の販売	・実習に際して、流通とプロモーションに関する課題を発見する。	4	実習の取り組み、ワークシート、発表の様子
	学年末考査	1			1	ペーパーテスト

計 105 時間 (50 分授業)

7 課題・提出物等

・学期ごとにノート、ワーク、実習作品、ワークシートを提出し、課題に対しての取り組み状況を確認する。

8 担当者からの一言

教科書の内容だけでなく、上越地域や高田商業高校ならではの課題解決に向けた取り組みも取り入れる予定です。次世代を担うみなさんのアイデアを出し、でもしろいことを考えたり、作ったりしていきましょう。

(担当：松木)

教科(科目)	地理歴史科(日本史探究)	単位数	3単位	学年(コース)	3学年
使用教科書	精選日本史探究(実教出版)				
副教材等	新詳日本史(浜島書店)				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	～上越地域唯一の商業を専門とした高等学校として、生徒の多様な進路に対応した教育活動を行います～ ①1年生では基礎学力の充実に努めるとともに、積極的に将来の自分について探求する姿勢を育成します。 ②2年生では商業科目を系統的に学習することを通して、高い専門性を追求します。 ③3年生では学校の教育活動全体を通して、実社会で必要とされるビジネスマナーの習得を目指します。 ④各学年における探究的な学習活動や体験学習、教科横断的な学習により、深い学びを実践していきます。
カリキュラム・ポリシー	～このような生徒を求めています～ ①将来は自分でお店を持つなど、起業に関心がある生徒。 ②事務や販売などの仕事につくことを目指しており、そのための知識を学びたい生徒。 ③生まれ育った地域のために自分に何が出来るか考えている生徒。 ④新しいことに挑戦してみたいという積極性があり、進路希望実現のために努力を惜しまない生徒。 ⑤健康的で規則的な生活習慣をもち、ルールやマナーを守れる生徒。

2 学習目標

我が国の歴史の展開について総合的な理解を深め、各時代の展開に関わる概念等を活用して多面的・多角的に考察し、歴史に見られる課題を把握し、地域や日本、世界の歴史の関わりを踏まえ、現代の日本の諸課題とその展望を探究する力を養うこと。

3 指導の重点

歴史的事象の知識習得にとどまることなく、日本国民としての自覚や我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚を深め、社会の一員としてよりよい生き方ができるようになること。

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、地理的条件や世界の歴史と関連付けながら総合的に捉えて理解するとともに、諸資料から我が国の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。	我が国の歴史の展開に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。	我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。

5 評価規準と評価方法

評価方法	各観点における評価方法は次のとおりです。		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	以上の観点を踏まえ、 ・年間5回の定期考査 ・課題レポート ・ノート提出内容 などから、評価します	以上の観点を踏まえ、 ・年間5回の定期考査 ・授業中のグループ活動 ・課題レポート などから、評価します	以上の観点を踏まえ、 ・ノート提出内容 ・課題レポート ・授業中の諸活動や発表などの取り組み などから、評価します
	内容のまとまりごとに、各観点「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」で評価します。内容のまとまりごとの評価基準は授業で説明します。		

6 学習計画

月	単元名	授業時数 と領域	教材名	学習活動(指導内容)	時間	評価方法
---	-----	-------------	-----	------------	----	------

4	第1章 国家と文化の形成	5	1. 日本列島と日本人	・日本列島の歴史はいつ、どのように始まったのだろうか。	1	定期考査 配布プリント 課題レポート ノート	
	2. 農耕の成立		・弥生文化はどのようにして生まれたのだろうか。	1			
3. ムラからクニへ	・日本列島にクニができたことによる影響について考える。		1				
5	第2章 古代国家の成立		4. ヤマト政権の形成	・日本列島と中国大陸・朝鮮半島との関係を考える。	1		
			5. 倭の五王	・古墳時代とヤマト政権の支配構造について考える。	1		
			6. 飛鳥朝廷	・大化の改新の狙いについて考える。	1		
			7. 大化改新	・律令国家が目指したものとは何であったのか、東アジアとの関わりについて考える。	1		
			8. 律令国家	・奈良時代と天平文化について考える。	1		
			9. 東アジアと天平文化	・平安時代初期の政治改革と版図の拡大を考える。	1		
			10. 奈良時代	・摂関政治はどのようにしておこなわれるようになったか。	1		
		11. 平安時代初期の政治	・藤原北家の発展と摂関政治の確立について考える。	1			
		12. 摂関政治と国風文化	・平安時代中期の国風文化について考える。	1			
		6	第3章 中世社会の成立	13. 摂関期の社会と経済			1
14. 院政	・院政の内容と中世荘園の成立を考える。			1			
15. 奥州藤原氏	・奥州藤原氏の繁栄の様子について考える。			1			
16. 源平争乱と鎌倉幕府	・平氏政権の特質について考える。			1			
17. 承久の乱と公武関係	・源頼朝が鎌倉に政権基盤を形成していく過程について考える。			1			
18. 地頭・御家人と荘園制の変質	・承久の乱が鎌倉幕府と朝廷との関係にどのように影響したのかを考える。			1			
19. 鎌倉時代の経済・産業と自然環境	・承久の乱の後に鎌倉幕府がおこなった組織改革の内容について考える。			1			
20. モンゴル襲来と日宋・日元交流	・鎌倉幕府の財政基盤と御家人制度について考える。			1			
7	第4章 中世社会の展開			21. 社会の変動と鎌倉幕府の滅亡	・鎌倉時代の貨幣経済と流通、農業について考える。		1
				22. 南北朝内乱	・モンゴル帝国が日本や世界に与えた影響について考える。		1
		23. 足利義満と室町幕府	・日本と宋・元との文化的交流、とくに仏教について考える。	1			
		24. 東アジアの海をゆきかう人々	・鎌倉幕府の滅亡過程について考える。	1			
		25. 惣村と一揆	・南北朝の内乱はなぜおこり、長期化したのか。	1			
		26. 戦国時代の幕あけ	・建武の新政について考える。	1			
		27. 室町・戦国時代の流通経済	・南北朝内乱期の政治・社会・文化について考える。	1			
		28. 戦国時代の政治と社会	・足利義満の政治とこのころの地方政治について考える。	1			
		7	第5章 統一政権の成立	29. 南蛮文化	・室町文化について考える。		1
				30. 織豊政権の全国統一	・倭寇と明・朝鮮との交易について考える。		1
31. 東アジアの変動と豊臣政権	・琉球と北方の交易について考える。			1			
			・惣村について考える。	1			
			・15世紀中ごろの応仁・文明の乱とその前後のできごとについて考える。	1			
			・15世紀後半の一揆の内容や背景について考える。	1			
			・戦国大名の支配や当時の町について考える。	1			
			・戦国時代の文化と生活について考える。	1			
			・東アジアにおけるヨーロッパ人の活動について考える。	1			
			・南蛮貿易や南蛮文化、キリスト教の伝来について考える。	1			
			・信長や秀吉の全国統一は、どのようにすすんでいったのだろうか。	1			
					夏休み課題		

8 9	第6章 幕藩体制の展開	6	32. 江戸幕府の支配のしくみ	・ 織豊政権の政策について考える。	1	定期考査 配布プリント 課題レポート ノート	
10			33. 江戸時代の対外関係	・ 関ヶ原の合戦の背景や影響について考える。	1		
			34. 身分制と村・町の生活	・ 江戸幕府の成立や支配について考える。	1		
			8	35. 幕府政治の転換	・ 江戸幕府のアジア・西洋諸国との交流やキリスト教対策について考える。		1
				36. 産業の発展	・ 「鎖国」の実態や「四つの口」について考える。		1
				37. 交通網の発達と都市の繁栄	・ 17世紀後半の徳川家綱・綱吉の政治について考える。		1
				38. 徳川吉宗・田沼意次と財政問題	・ 18世紀の幕府政治について考える。		1
				39. 商品経済の発達と民衆の運動	・ 江戸時代の産業の発展について考える。		1
				40. 寛政の改革と欧米諸国の日本接近	・ 交通網の発達や三都の繁栄を考える。		1
				41. 江戸時代後期の学問・文化	・ 享保の改革を考える。		1
				42. 天保の改革	・ 田沼意次の政治について考える。		1
11				43. 開国	・ 一揆と打ちこわしの背景や影響について考える。		1
	44. 倒幕と「ええじゃないか」	・ 寛政の改革の内容を考える。		1			
	45. 明治維新	・ 19世紀後半ごろの外国船の接近について考える。	1				
	46. 文明開化	・ 江戸時代後期の学問の展開を考える。	1				
	47. 富国強兵	・ 化政文化について考える。	1				
	48. 国境の画定	・ 内憂外患の深刻化を考える。	1				
	49. 自由民権運動	・ 天保の改革の内容と影響を考える。	1				
	50. 激化事件	・ 倒幕に至る過程について考える。	1				
	51. 大日本帝国憲法	・ 徳川幕府の滅亡と新政権の動きを考える。	1				
	第7章 大日本帝国の展開	9	43. 開国	・ 戊辰戦争と新政府の始動について考える。	1		
44. 倒幕と「ええじゃないか」			・ 新政府の体制づくりの内容を考える。	1			
45. 明治維新			・ 岩倉使節団の内容や意義を考える。	1			
46. 文明開化			・ 地租改正や殖産興業などの政府の政策について考える。	1			
47. 富国強兵			・ 国民皆兵と政府への反発について考える。	1			
48. 国境の画定			・ 東アジアとの外交関係について考える。	1			
49. 自由民権運動			・ 蝦夷地と琉球について考える。	1			
50. 激化事件			・ 自由民権運動がはじまるきっかけを考える。	1			
51. 大日本帝国憲法			・ 自由民権運動の展開を考える。	1			
第8章 大日本帝国と大正デモクラシー			9	52. 日清戦争	・ 松方正政について考える。		1
				53. 1900年前後の世界と東アジア	・ 激化事件や困民党の動きを考える。		1
				54. 日露戦争	・ 憲法制定と近代天皇について考える。		1
	55. 社会問題と地域社会	・ 選挙と議会の動きを考える。		1			
	56. 大正デモクラシー	・ 日清戦争前の東アジア情勢について考える。		1			
	57. 第一次世界大戦と日本	・ 日清戦争の内容を考える。		1			
	58. 資本主義の成長	・ 世界と日本の帝国主義について考える。		1			
	59. 改造の時代	・ 1900年前後の東アジア情勢を考える。		1			
	60. 植民地	・ 日露戦争の前後の世界と日本の帝国主義について考える。		1			
		52. 日清戦争		・ 日本の韓国併合について考える。	1		
		53. 1900年前後の世界と東アジア		・ 日本の産業革命について考える。	1		
		54. 日露戦争		・ 20世紀初頭を中心とした日本の社会問題について考える。	1		
55. 社会問題と地域社会		・ 日露戦争後の社会や民衆の様子について考える。	1				
56. 大正デモクラシー		・ 大正デモクラシーについて考える。	1				
57. 第一次世界大戦と日本		・ 第一次世界大戦と日本との関係について考える。	1				

計 105 時間 (50 分授業)

課題レポート、授業ノート、配布プリント等

- ・歴史は暗記科目ではなく、過去と未来をつなぐ架け橋のようなものです。時代によって、人々の暮らしや価値観、社会や文化の有り様は変化しています。これからの未来を考える上で、歴史を学ぶことは必要不可欠なものです。
- ・受け身の姿勢で学習に取り組まないこと。主体的・意欲的に授業に参加することで、歴史が身近で楽しい学びの場になるはずです。
- ・各種の課題提出を怠らないこと。

教科(科目)	商業（グローバル経済）	単位数	3単位	学年(コース)	3学年 A選択
使用教科書	実教出版『グローバル経済』				
副教材等	実教出版『グローバル経済 準拠問題集』				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	～上越地域唯一の商業を専門とした高等学校として、生徒の多様な個性に対応した教育活動を行います～ ①1年生では基礎学力の充実に努めるとともに、積極的に将来の自分について探求する姿勢を育成します。 ②2年生では商業科目を系統的に学習することを通して、高い専門性を追求します。 ③3年生では学校の教育活動全体を通して、実社会で必要とされるビジネスマナーの習得を目指します。 ④各学年における探究的な学習活動や体験学習、教科横断的な学習により、深い学びを実践していきます。
カリキュラム・ポリシー	～このような生徒を求めています～ ①将来は自分でお店を持つなど、起業に関心がある生徒。 ②事務や販売などの仕事につくことを目指しており、そのための知識を学びたい生徒。 ③生まれ育った地域のために自分に何か出来るか考えている生徒。 ④新しいことに挑戦してみたいという積極性があり、進路希望実現のために努力を惜しまない生徒。 ⑤健康的で規則的な生活習慣をもち、ルールやマナーを守れる生徒。

2 学習目標

商業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、グローバル化する経済社会におけるビジネスの展開に必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 経済のグローバル化について実務に即して体系的・系統的に理解するようにする。 (2) 経済のグローバル化への対応に関する課題を発見し、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を養う。 (3) ビジネスを適切に展開する力の向上を目指して自ら学び、グローバル化する経済社会におけるビジネスに主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

3 指導の重点

商業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、グローバル化する経済社会におけるビジネスの展開に必要な資質・能力を育成することを目指します。

4 評価の観点の趣旨

知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
企業における経済のグローバル化への対応など実務と関連付けられ、ビジネスの様々な場面で役に立つ経済に関する知識を身に付けている。	経済のグローバル化をはじめとした様々な知識などを活用し、企業における経済のグローバル化への対応に関する課題を発見するとともに、企業活動が社会に及ぼす影響を踏まえ、経済社会の動向、経済に関する理論やデータ、ビジネスに関する成功事例や改善を要する事例など科学的な根拠に基づいて工夫してよりよく解決することについて考えている。	ビジネスを適切に展開する力の向上を目指して自ら経済について学ぶ態度及び組織の一員として自己の役割を認識して当事者としての意識をもち、他者と信頼関係を構築して積極的に関わり、経済社会の動向を踏まえて経済のグローバル化に対応したビジネスの展開に責任をもって取り組もうとしている。

5 評価方法

評価方法	各観点における評価方法は次のとおりです。		
	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	以上の観点を踏まえ、定期考査の結果、確認テスト、提出物の内容などから評価します。	以上の観点を踏まえ、定期考査の結果、確認テスト、提出物の内容などから評価します。	以上の観点を踏まえ、定期考査の結果、確認テスト、提出物の内容などから評価します。
	内容のまとまりごとに、各観点「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」で評価します。内容のまとまりごとの評価基準は授業で説明します。		

6 学習計画

月	単元名	授業時数 と領域	教材 名	学習活動(指導内容)	時間	評価方法
4	第1章 グローバル化が進展する社会	30	教科書 問題集	グローバル化と国際化の違い、グローバル化の進展と経済成長との関係について、地球規模で経済を考察する学習活動をおこないます。	30	授業の取り組み 授業時の課題
5						中間考査 課題の提出
6	第2章経営のグローバル化			日本における経済成長の現状とその要因について経済指標の国際比較などを基に分析し考察する学習活動をおこないます。		期末考査
7						夏季休業課題
8						
9	第3章 経済のグローバル化	40		ビジネスを担う人材が国境を越えて移動しビジネスが展開されているなど人材のグローバル化の動向とそれに伴う課題について経済社会における具体的な事例と関連付けて分析し、考察する学習活動をおこないます。	40	中間考査
10						
11				金融のグローバル化の動向とそれに伴う課題及び国際資本移動の現状・課題について、経済社会における具体的な事例と関連付けて分析し、考察する学習活動をおこないます。		
12						期末考査
1	第4章	35		経済のグローバル化に伴って企業活動が日本にとどまらず経済社会に広く影響を及ぼしている現状及び企業活動に責任を持つことの重要性について具体的な事例と関連付けて分析し、考察する学習活動をおこないます。	35	
2	市場と経済					
3						授業時の課題 学年末考査

計 105 時間 (50 分授業)

7 課題・提出物等

- ・授業時の課題
- ・夏季休業、冬季休業課題

8 担当者からの一言

経済のグローバル化について興味・関心を抱き、楽しく学ぶことが大切です。

教科(科目)	商業（原価計算）	単位数	3単位	学年(コース)	3学年 A選択
使用教科書	実教出版『原価計算』				
副教材等	実教出版『最新段階式簿記検定問題集1級原価計算改訂版』、実教出版『簿記実務検定模擬試験問題集1級原価計算』				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	～上越地域唯一の商業を専門とした高等学校として、生徒の多様な進路に対応した教育活動を行います～ ①1年生では基礎学力の充実に努めるとともに、積極的に将来の自分について探求する姿勢を育成します。 ②2年生では商業科目を系統的に学習することを通して、高い専門性を追求します。 ③3年生では学校の教育活動全体を通して、実社会で必要とされるビジネスマナーの習得を目指します。 ④各学年における探究的な学習活動や体験学習、教科横断的な学習により、深い学びを実践していきます。
カリキュラム・ポリシー	～このような生徒を求めています～ ①将来は自分でお店を持つなど、起業に関心がある生徒。 ②事務や販売などの仕事につくことを目指しており、そのための知識を学びたい生徒。 ③生まれ育った地域のために自分に何が出来るか考えている生徒。 ④新しいことに挑戦してみたいという積極性があり、進路希望実現のために努力を惜しまない生徒。 ⑤健康的で規則的な生活習慣をもち、ルールやマナーを守れる生徒。

2 学習目標

製造業における原価計算および簿記に関する基本的な知識と技術を習得させ、原価について理解させ、原価計算から得られる情報を活用する能力と態度を育てる。

3 指導の重点

- (1) 原価計算の基本的な考え方と計算方法および記帳方法を習得する。
- (2) 原価計算の役割や資料の有効な活用について理解する。

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
原価計算に関する基礎的、基本的な知識を身につけ、原価計算の必要性を理解することができる。また、原価計算の仕組みを活かし、記帳ができる。	原価計算の仕組みや記帳、様々な計算方法をもとに、原価情報を有効に活用できる。	原価計算の意味や記帳方法に対し、興味、関心をもち主体的に、かつ協働的に取り組むことができる。

5 評価方法

評価は次の観点から行います。			
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価方法	原価計算の必要性を理解し、基礎的、基本的な知識を身につけたか。 原価計算の仕組みを活かし、記帳ができるか。	様々な原価計算を体系的にとらえているか。 それぞれの原価計算の仕組みや記帳法、計算法から原価情報を有効に活用できるか。	原価計算の意味や記帳方法に対し、自ら学ぶ姿勢をもち、主体的に取り組んでいるか。 また、協働的に取り組むことができるか。
	内容のまとまりごとに、各観点「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」で評価します。 内容のまとまりごとの評価基準は授業で説明します。		

6 学習計画

月	単元名	授業時数 と領域	教材名	学習活動(指導内容)	時間	評価方法
4	原価と原価計算 原価計算のあらまし 工業簿記-製造業におけ る簿記	1 2 6	教科書 問題集	・原価の意味とその要素の分類および原価計算の目的や意味、手続き、 機関、種類などについて理解する。 ・製造業における経営活動と原価計算との関係および簿記の特色に ついて理解する。また、工業簿記の勘定体系を理解する。	35	学習態度
5	材料費の計算 労務費の計算 経費の計算	4 4 2		・材料費の分類および材料の仕入、保管、払出、消費における記帳法 を習得し、予定価格を用いた材料消費高の計算方法についても理解す る。 ・労務費の分類および賃金の支払い、消費における計算と記帳法を習 得し、予定賃率を用いた賃金消費高の計算方法についても理解する。 ・経費の分類および消費高の計算と記帳法を習得、理解する。		中間考査 課題
6	個別原価計算	8		・個別原価計算表の作成、原価計算表と製造勘定の関係、製造間接費 の配賦、仕損品、作業くずの処理法を習得する。また、造間接費の予 定配賦についても学習する。		
7	部門別個別原価計算	8		・部門別計算の必要生および原価部門の設定、部門別間費と部門共通 費の区分について理解する。また、部門費配分表および部門費振替表の 意味と作成法を習得する。さらに、製造部門費の予定配賦についても 学習する。		期末考査 課題
8	総合原価計算	13		・総合原価計算の特色を個別原価計算との違いを明らかにしながら 理解し、月末仕掛品の計算方法についても習得する。また、単純総合 原価計算表、等級別総合原価計算表、組別総合原価計算表、工程別 総合原価計算表の考え方と計算方法、記帳方法を習得する。	50	課題考査 学習態度
9	工程別総合原価計算 総合原価計算における 減損・仕損じなどの処理	4 2		・製品の完成と販売に関する記帳を習得する。また、工場会計が本社 会計から独立している場合の本社と工場間の取引の記帳についても理 解する。		
10	製品の完成と販売 決算と本社・工場間の取 引	2 4		・製造業における決算の手続きを理解し、製造原価報告書を作成する。 また、財務諸表においては商業簿記との違いを理解する。 ・製造業における決算の手続きを理解し、製造原価報告書を作成する。 また、財務諸表においては商業簿記との違いを理解する。		中間考査 課題
11	標準原価計算 (その1) 標準原価計算 (その2)	3 12		・原価管理の基本的な意味および標準原価計算一連の手続きについ て理解する。また、差異分析やバーチャルプランによる記帳法につい ても習得する。		
12	直接原価計算 (その1) 直接原価計算 (その2)	2 8		・直接原価計算が利益計算に役立つことを理解し、簡単な計算例を通し て、売上高、原価、利益の関係を習得する。		期末考査 課題
	演習問題 総合問題	20		・問題演習を行い、解法等を習得する。	20	課題考査 学習態度
1	総合問題					検定 課題
2	模範試験問題					
3	復習					

計 105 時間 (50 分授業)

7 課題・提出物等

原価計算の基本的な考えを理解するために問題演習を多くこなし、課題提出を課する。

8 担当者からの一言

1年次に学習した商業簿記を活用し、私たちの生活を取りまく製品の原価について学習します。このことから、「モノには原価がある」という考え方を身に付け、原価に対する考え方や利益を計上することの重要性を身に付けてほしいと思います。

教科(科目)	家庭科（フードデザイン）	単位数	3単位	学年(コース)	3学年 A選択
使用教科書	教育図書『フードデザイン Food Changes L I F E』				
副教材等	教育図書『新版 基礎から学ぶビジュアルクッキング』				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	～上越地域唯一の商業を専門とした高等学校として、生徒の多様な進路に対応した教育活動を行います～ ①1年生では基礎学力の充実に努めるとともに、積極的に将来の自分について探求する姿勢を育成します。 ②2年生では商業科目を系統的に学習することを通して、高い専門性を追求します。 ③3年生では学校の教育活動全体を通して、実社会で必要とされるビジネスマナーの習得を目指します。 ④各学年における探究的な学習活動や体験学習、教科横断的な学習により、深い学びを実践していきます。
カリキュラム・ポリシー	～このような生徒を求めています～ ①将来は自分でお店を持つなど、起業に関心がある生徒。 ②事務や販売などの仕事につくことを目指しており、そのための知識を学びたい生徒。 ③生まれ育った地域のために自分に何が出来るか考えている生徒。 ④新しいことに挑戦してみたいという積極性があり、進路希望実現のために努力を惜しまない生徒。 ⑤健康的で規則的な生活習慣をもち、ルールやマナーを守る生徒。

2 学習目標

- ・栄養、食品、献立、調理、テーブルコーディネートなどについて体系的・系統的に理解すると共に、関連する技術を身に付ける様にする。
- ・食生活の現状から食生活全般に関する課題を発見し、食生活の充実向上を担う職業人として合理的かつ創造的に解決する力を養う。
- ・食生活の充実向上を目指して自ら学び、食生活の総合的なデザインとの食育の推進に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

3 指導の重点

- ・家庭科食物調理技術検定4級、3級合格を目指し、基本的知識調理技術を身につける。
- ・毎週調理実習を行い、調理操作の基本を習得し、さらにテーブルコーディネート、テーブルマナー、日本の行事食、郷土食などについて実践的に学ぶ態度と技術を身につける。

4 評価の観点の趣旨

知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
栄養・食品・献立・調理・テーブルコーディネートなどフードデザインに必要な要素を相互に関連付けて理解し、実践できる技術を習得している。	多面的に食生活の現状を捉えて思考を深め、食生活の充実向上を目指し、自ら発見するとともに、家庭や地域の実情に合わせてより豊かな食生活を創造することによって課題を解決できる。	健全な食生活の実現を図るために、進んで学ぶ姿勢を持ちつつ、食材を適切に選択し、作るところから食べるところまでを総合的に捉えて、主体的に計画・実践することができる。また、習得した知識や技術を家庭や地域で積極的に活用し、食育の推進と他と協働して取り組む事ができる。

5 評価方法

評価方法	各観点における評価方法は次のとおりです。		
	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	以上の観点を踏まえ、食品や調理に関する基礎的・基本的な俊樹や技術を身につけている。 ・定期テスト ・実技テスト などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、食生活の課題解決を目指して、思考を深め、基礎的・基本的な知識と技術を元に、適切に判断し、表現する能力を身につけている。 ・定期考査・授業への取り組み・課題提出 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、食生活を取り巻く諸課題について関心を持ち、その改善・向上を目指し、主体的に取り組む態度を身につけている。 ・授業への取り組み・実習レポート・課題提出 などから、評価します。
	内容のまとまりごとに、各観点「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」で評価します。内容のまとまりごとの評価基準は授業で説明します。		

6 学習計画

月	単元名	授業時数 と領域	教材名	学習活動(指導内容)	時間	評価方法
4	第1章 健康と食生活 〔献立と調理〕	5	視聴覚教材	○食中毒の特徴や予防などを行い 衛生的な実習を理解する	5	授業への取り組み 学習プリント
5	第2章 栄養素と食品	3 3		○調理の基本 基本の調理技術、日常食の調理 *食物調理技術検定4級受験に向け練習	3 3	作業観察 定期考査
6	〔献立と調理〕			・切り方・計量の仕方・基礎知識		
7	第3章 食品の選択と取 り扱い 〔献立と調理〕			・日常食の調理 *食物調理技術検定3級受験に向け練習		
8	第4章 調理してみよう	3 3		○食品の調理上の性質	3 3	授業への取り組み 学習プリント
9	〔献立と調理〕			○様式別の献立と調理・食卓作法 日本料理・中国料理・西洋料理の特 徴と調理	2 0	作業観察
10	第5章 各国料理とコー ディネート	2 0		○調理実技テスト ○行事食		実技テスト 定期考査
11	〔献立と調理〕	1 4		○テーブルコーディネート実習 クリスマス料理	1 4	授業への取り組み 学習プリント 作品提出
12	第6章 食育と食育推進 活動			お正月料理 郷土料理		作業観察
1						
2						
3						

計 105 時間 (50 分授業)

7 課題・提出物等

- ・検定合格に向けて家庭で切り方など練習をします。
- ・実習毎に実習記録を作成し提出します。
- ・タブレットを利用した、食に関する調べ学習や発表を行います。

8 担当者からの一言

調理実習を基本的に毎週行うため技術が向上します。食事は毎日の事なので自立には必須の技術を身につけることができます。予習は必要ありませんが、調理は科学なので、実習をしたら、その食べ物や調理法がどのような特徴を持つか、関心を持つことが大切です。健康な体作りのためにも知識や技術を身につけましょう。

教科(科目)	国語（国語表現）	単位数	3単位	学年(コース)	3学年 B選択
使用教科書	大修館書店『国語表現』				
副教材等	大修館書店『国語表現基礎練習ノート』 日本漢字能力検定協会『基礎から学べる文章カステップ3級対応』				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	～上越地域唯一の商業を専門とした高等学校として、生徒の多様な進路に対応した教育活動を行います～ ①1年生では基礎学力の充実に努めるとともに、積極的に将来の自分について探求する姿勢を育成します。 ②2年生では商業科目を系統的に学習することを通して、高い専門性を追求します。 ③3年生では学校の教育活動全体を通して、実社会で必要とされるビジネスマナーの習得を目指します。 ④各学年における探究的な学習活動や体験学習、教科横断的な学習により、深い学びを実践していきます。
カリキュラム・ポリシー	～このような生徒を求めています～ ①将来は自分でお店を持つなど、起業に関心がある生徒。 ②事務や販売などの仕事につくことを目指しており、そのための知識を学びたい生徒。 ③生まれ育った地域のために自分に何が出来るか考えている生徒。 ④新しいことに挑戦してみたいという積極性があり、進路希望実現のために努力を惜しまない生徒。 ⑤健康的で規則的な生活習慣をもち、ルールやマナーを守る生徒。

2 学習目標

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 ・実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。 ・論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、実社会における他者との多様な関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。 ・言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。
--

3 指導の重点

①原稿用紙の正しい使い方をはじめ、文章を書くときの基本的な約束事を身に付けることを目指す。 ②様々なテーマの課題に取り組むことで、社会に対する知見を広め、考えを深めることを目指す。 ③言語活動等を通じ異なる意見に触れることで、自らの表現活動を効果的なものにするを目指す。
--

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けようとしている。	「話すこと・聞くこと」「書くこと」の各領域において、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、実社会における他者との多様な関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとしている。

5 評価方法

評価方法	各観点における評価方法は次のとおりです。		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	以上の観点を踏まえ、 ・ペーパーテストの分析 ・提出された課題などの確認 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・ペーパーテストの分析 ・提出された課題などの確認、分析 ・振り返りシートの分析 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・授業への取組状況の観察 ・振り返りシートの分析 などから、評価します。
	内容のまとまりごとに、各観点「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」で評価します。内容のまとまりごとの評価基準は授業で説明します。		

6 学習計画

月	単元名	授業時数 と領域	教材名	学習活動(指導内容)	時間	評価方法
4	言葉と出会う	10 書くこと	言葉と表記・整った文を書く・わかりやすい文を書く	・原稿用紙の使い方の基本を習得する。段落分けや段落構成、推敲の方法について学ぶ。	10	ワークシート (確認)
5	伝える、伝え合う (1)	6 話すこと・聞くこと	自己紹介ゲーム・言葉のストレッチ体操	・発声、発音の練習、スピーチの練習を行う。	6	ワークシート (確認、分析) 発表の様子 (確認)
6	伝える、伝え合う (2)	10 書くこと	絵や写真を見て書く・マイニュース記事を書こう	・伝えたいことが正確に伝わるように書く練習をする。	10	ワークシート (確認、分析)
7	小論文・レポート入門 (1)	10 書くこと	小論文入門・反論を想定して書く	・分かりやすい表現の仕方や文章の「型」、構成の方法を学ぶ。	10	ワークシート、小論文 (確認、分析)
8	小論文・レポート入門 (2)	10 書くこと	文章を読み取って書く・統計資料を読み取って書く	・課題文型、データ型小論文の書き方を学ぶ。	10	ワークシート、小論文 (確認、分析)
9	自己PRと面接 (1)	8 話すこと・聞くこと	効果的な自己PR・面接にチャレンジ・グループディスカッション	・論理的な意見の述べ方や、相手の意見を尊重し、正しく聞き取る方法を学ぶ。 ・模擬面接、ディスカッションを行う。	8	ワークシート 面接、ディスカッションの様子 (確認、分析)
10	メディアを駆使する	8 書くこと	通信文を書き分ける・電子メールの活用・ネットを活用した情報収集	・手紙の書き方、メールの活用方法、ネットを活用した情報収集の方法等を学ぶ。	8	ワークシート (確認)
11	表現を楽しむ	7 書くこと	エッセイを書こう	・エッセイの構成や文体、表現などを学ぶ。	7	ワークシート エッセイ (確認、分析)
12	会話・議論・発表 (1)	8 話すこと・聞くこと	相手や場面に応じた会話・建設的な議論の進め方	・場面に応じた話し方や生産的で実りある話し合いの進め方について学ぶ。	8	ワークシート 話し合いの様子 (確認、分析)
1	小論文・レポート入門 (3)	12 書くこと	レポートを書く・論文を書くために	・レポートや論文の書き方を学ぶ。	12	レポート、論文 (確認、分析)

2	会話・議論・発表(2)	8 話すこと・聞くこと	プレゼンテーションの工夫	・プレゼンテーションの方法を学ぶ。	8	ワークシート プレゼンテーションの様子 (確認、分析)
3	自己PRと面接(2)	8 書くこと	志望理由書・自己推薦書を書く	・進路に関わる多様な書式に対応できる力を身に付ける。	8	ワークシート (確認)

計 105 時間 (50 分授業)

※ 領域ごとの授業時数合計

A「話すこと・聞くこと」	30時間	B「書くこと」	75時間
--------------	------	---------	------

7 課題・提出物等

・課題作文や小論文／課題ノート／時間の中で使用したワークシート／単元の振り返りシート等

8 担当者からの一言

「伝え合う力」は良好な人間関係づくりや健全な社会づくりになくてはならない力となります。授業中だけでなく、日ごろから国語に対する関心を高めていることが大切です。

教科(科目)	公民科（倫理）	単位数	3単位	学年(コース)	3学年 B選択
使用教科書	東京書籍『倫理』				
副教材等	第一学習社『最新倫理資料集テオリア』				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	～上越地域唯一の商業を専門とした高等学校として、生徒の多様な進路に対応した教育活動を行います～ ①1年生では基礎学力の充実に努めるとともに、積極的に将来の自分について探求する姿勢を育成します。 ②2年生では商業科目を系統的に学習することを通して、高い専門性を追求します。 ③3年生では学校の教育活動全体を通して、実社会で必要とされるビジネスマナーの習得を目指します。 ④各学年における探究的な学習活動や体験学習、教科横断的な学習により、深い学びを実践していきます。
カリキュラム・ポリシー	～このような生徒を求めています～ ①将来は自分でお店を持つなど、起業に関心がある生徒。 ②事務や販売などの仕事につくことを目指しており、そのための知識を学びたい生徒。 ③生まれ育った地域のために自分に何か出来るか考えている生徒。 ④新しいことに挑戦してみたいという積極性があり、進路希望実現のために努力を惜しまない生徒。 ⑤健康的で規則的な生活習慣をもち、ルールやマナーを守れる生徒。

2 学習目標

・青年期における自己形成の課題について、現代の倫理的課題とともに理解と思索を深め、他者とともに生きる自己の在り方生き方について考えます。 ・先哲の基本的な考え方の理解を手掛かりとして、人間の存在や価値に関わる課題について思索し、人生観・世界観・価値観などを形成し、自己の人格形成に努める実践的態度を育成します。 ・日本の伝統的な人間観、自然観、宗教観などの特質について、自己との関わりの中で理解し、日本人としての在り方生き方について自覚を深めます。 ・現代の倫理的課題や生徒の当面する課題について、先哲の考え方を学びつつ、倫理的な見方や考え方を身に付け、主体的に課題を解決していくための能力や態度を養います。 ・人間尊重の精神と生命に対する畏敬の念を涵養し、現代の倫理的課題を自己の課題と関連づけて探求し、論理的思考力や表現力を身に付けて、平和で民主的な社会の実現に寄与する態度を養います。

3 指導の重点

現代社会が抱える様々な課題を解決すべく、いろんな角度から考察していく事ができる幅広い視野を持つ人間の形成を目指しています。また、青年期における自己形成の課題及び人間としての在り方生き方についての理解と思索を深めることをも目指しています。従ってこのような地力を養えるような授業を展開していきます。受け身ではなく、いろんな情報や考え方を総合的に判断して自分の力としていけるような授業を展開することに重点を置きます。

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
青年期における自己形成や人間としての在り方生き方、現代の倫理的課題などに関した基本的な事柄を他者と共に生きる自己の確立の課題として理解している。 さらに、自己の人格形成や課題解決のためにいかに知識を身につけている。 自己形成や人間としての在り方生き方、現代の倫理的課題に関して様々な資料を収集、整理し、情報を主体的に選択している。 また、それについての確に反省し、自己評価することができる。	他者と共に生きる自己の確立について広く課題を発見し、人間の存在や価値、現代の倫理課題などについて多面的・多角的に探究しようとしている。 良識ある公民としての広い視野に立つことで、主体的かつ公正な判断をしている。 課題についての考察や判断の過程や結果を、様々な方法で論理的に表現している。また、それについての確に反省し、自己評価することができる。	人間尊重の精神と生命に対する畏敬の念を高めており、人格形成や自己形成の確立に努める実践的意欲を持っている。 倫理的な諸課題についての探究的な態度を身につけ、人間としての在り方生き方への自覚を深めようとしている。

5 評価方法

評価方法	各観点における評価方法は次のとおりです。		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	以上の観点を踏まえ、主に定期考査・レポート・ノートのまとめ方などから、評価します	以上の観点を踏まえ、主に定期考査・レポート・ノートの記述・発表内容などから、評価します	以上の観点を踏まえ、主に授業態度や積極的参加状況・課題の提出・出席状況などから、評価します
	内容のまとまりごとに、各観点「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」で評価します。内容のまとまりごとの評価基準は授業で説明します。		

6 学習計画

月	単元名	授業時数と領域	教材名	学習活動(指導内容)	時間	評価方法

4	第1編第1章 人間の心のあり方		人間とは何か 人間の心の動き 哲学すること ギリシャの思想	①人間の特質②青年期の課題 ①認知②感情と個性③発達 ①人間と哲学 ①哲学の誕生と自然哲学②ソクラテスとソフィスト③プラトン④アリストテレス⑤ヘレニズム・ローマ時代の思想 ①集団的な現象としての宗教	4 4 4	
5	第2章さまざまな人生観・倫理観・世界観Ⅰ					提出プリント
6		20	宗教と社会 キリスト教 イスラーム 仏教	①旧約聖書の倫理②イエスの教え ③キリスト教の展開 ①ムハンマドとイスラームの教え ②イスラームの展開 ①古代インドの思想②ブッダの思想③仏教の展開	8 3 5 4	定期考査、ノート 提出プリント
7			中国の思想 芸術	①孔子と儒家の思想②儒家思想の展開③老荘思想 ①美の発見と芸術の創造・鑑賞②芸術と社会	5 5 3	定期考査、ノート
8	第3章さまざまな人生観・倫理観・世界観Ⅱ	25	近代と人間尊重の精神 近代思想の展開 人格の尊厳と人倫の思想 社会変革の思想 理性への疑念 人間観・言語観の問いなおし	①新しい学問の方法②経験論と合理論の対話③社会契約説 ①人格の尊厳ーカント②ヘーゲルー人倫の思想 ①功利主義と幸福②社会主義思想 ③社会の進歩と実証的思想 ①世界をとらえる知のあり方の変容 ①存在への問い②新たな知の枠組み③現代思想の展開	2 5 5 5 5	
9						課題レポート
10		22	他者・自然とのかかわり 日本人の精神風土 仏教と日本人の思想形成 儒教と日本人の思想形成 国学の思想 庶民の思想	①他者と言語②民主社会の熟成のために③社会参加と奉仕④自然と人間とのかかわり ①日本人の自然観②日本人の宗教観③日本人の倫理観 ①仏教の受容②仏教の日本的展開 ③仏教と日本文化 ①儒教の需要②儒教の日本的展開 ①国学の形成と展開 ①庶民の思想の広がり②幕末の思想	5 5 5 5 5	定期考査、ノート
11	第4章国際社会に生きる日本人としての自覚				6 2 3 3	
12		20	西洋思想と日本人の近代化 国際社会に生きる日本人の自覚 生命 自然	①近代化と啓蒙思想②キリスト教の需要③社会思想の展開④近代的な自己の追求⑤近代日本の創造的な思想 ①戦後思想の動向②グローバル化と日本人 生きることの意義とは何だろう 自然との共存とは何だろう	3 3 3	定期考査、ノート
1	第2編現代の諸課題と倫理	10			3 2 2	課題レポート

2			科学技術	技術情報は私たちに何をもたらすのか	2	定期考査、ノート
			福祉	だれにとっても住みやすい社会とは	2	
			文化と宗教	異なる文化や宗教が共生するには	2	
3		8	戦争と平和	どうすれば平和な世界を実現できるか	2	課題レポート

計 105 時間 (50 分授業)

7 課題・提出物等

配布プリント、定期考査の際に提出するノート、課題レポート 等

8 担当者からの一言

自らの生き方を模索している最中の皆さんだと思います。自分のことすらわからないのと思うかもしれませんが、だからこそ、先達の悩みや考え方生き方を学ぶことにより、これからの自分作りのヒントとしていただければ幸いです。さあ、一緒に自分探しと未来の自分を見つける旅に出かけましょう。

教科(科目)	数学(教養数学)	単位数	3単位	学年(コース)	3学年 B選択
使用教科書	実教出版『脳のビタミンもう一度数学を』 実教出版『新編 数学I』 実教出版『新編 数学A』				
副教材等	実教出版『スパイラル 数学I+A』				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	～上越地域唯一の商業を専門とした高等学校として、生徒の多様な進路に対応した教育活動を行います～ ①1年生では基礎学力の充実に努めるとともに、積極的に将来の自分について探求する姿勢を育成します。 ②2年生では商業科目を系統的に学習することを通して、高い専門性を追求します。 ③3年生では学校の教育活動全体を通して、実社会で必要とされるビジネスマナーの習得を目指します。 ④各学年における探究的な学習活動や体験学習、教科横断的な学習により、深い学びを実践していきます。
カリキュラム・ポリシー	～このような生徒を求めています～ ①将来は自分でお店を持つなど、起業に関心がある生徒。 ②事務や販売などの仕事につくことを目指しており、そのための知識を学びたい生徒。 ③生まれ育った地域のために自分に何が出来るか考えている生徒。 ④新しいことに挑戦してみたいという積極性があり、進路希望実現のために努力を惜しまない生徒。 ⑤健康的で規則的な生活習慣をもち、ルールやマナーを守れる生徒。

2 学習目標

数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 数学における基本的な概念や原理・法則の体系的な理解を深め、事象を数学的に表現・処理する能力を高める。
- (2) 課題を多様な事象と関連させ、総合的に考察する中でその過程や結論を論理的に表現できるようにする。
- (3) 習得した知識や技能を活用しながら、数学と人間の活動との関わりや、社会生活において数学が果たしている役割について数学的論拠に基づいて判断し、探究することで、数学の有用性を認識させ、数学に対する興味・関心を高める。

3 指導の重点

- (1) 既習の学習内容の総合的な復習および補充的学習
- (2) 数学に対する興味・関心を高める内容の学習
- (3) 数学が実生活に応用されていることを実感させる内容の学習

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・数学における基本的な概念、原理・法則、用語や記号などを体系的に理解している。 ・事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身に付けている。	・課題を多様な単元や事象と関連させ、総合的に事象を考察している。 ・自らの思考の過程やその結果を論理的に表現できる。 ・他者の考えを参考に多面的、発展的に考えている。	・習得した知識や技能を活用し、探究しようとしている。 ・数学の良さを認識し、数学的論拠に基づいて判断しようとしている。 ・自らの学習状況を把握し、より良く学ぼうと意欲を持って取り組んでいる。

5 評価方法

評価方法	各観点における評価方法は次のとおりです。		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	以上の観点を踏まえ、 ・ペーパーテスト(定期考査、課題テスト、小テスト等)の分析 ・長期休業中の課題等の提出状況 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・ペーパーテスト(定期考査、課題テスト、小テスト等)の分析 ・長期休業中の課題等の提出状況 ・授業の取り組み(授業態度、発言の様子、学習活動への参加状況など)などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・長期休業中の課題等の提出状況 ・授業の取り組み(授業態度、発言の様子、学習活動への参加状況など)などから、評価します。

	内容のまとまりごとに、各観点 「A：十分に満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」 で評価します。 内容のまとまりごとの評価基準は授業で説明します。
--	--

6 学習計画

月	単元名	教材名	学習活動(指導内容)	授業 時数	評価方法
4 5 6	数と式	式の計算 実数 1次不等式	整式の加法・減法・乗法、および因数分解 実数の概念や平方根の計算 1次方程式、1次不等式、連立不等式 ・人間はどのように数を生み出したのか ・黄金比、紙や本の縦横の比など	30	定期考査、課題テスト、小テスト 課題等の提出状況 授業の取り組み
6 7	集合と論証	集合と論証	集合に関する基本的事項、必要条件、十分条件、必要十分条件、逆・裏・対偶 対偶を利用する証明、背理法 ・素数が無限に存在することなど	12	定期考査、課題テスト、小テスト 課題等の提出状況、 授業の取り組み
8 9 10	2次関数	2次関数とそのグラフ 2次方程式と2次不等式	1次関数、2次関数とそのグラフ 2次方程式、2次不等式、連立不等式 ・車の走行速度と制動距離との関係など	15	定期考査、課題テスト、小テスト 課題等の提出状況、 授業の取り組み
10 11	図形と計量	三角比 三角比と図形の計量	三角比（正接・正弦・余弦）の基本 正弦定理・余弦定理、三角形の面積 ・幾何学の人間へのかかわり	18	定期考査、課題テスト、小テスト 課題等の提出状況、 授業の取り組み
11 12 1	データの分析	データの整理 データの分析	度数分布、代表値、四分位数と四分位偏差 分散と標準偏差 データの相関、外れ値 ・鳥の体重と翼の面積など	10	定期考査、課題テスト、小テスト 課題等の提出状況、 授業の取り組み
1 2 3	場合の数と確率	場合の数 確率	集合の要素の個数、場合の数、順列、組合せ 確率の基本性質、独立試行の確率、条件付き確率、期待値 ・勝負に勝つ確率、宝くじの期待値など	20	定期考査、課題テスト、小テスト 課題等の提出状況、 授業の取り組み

計 105 時間 (50 分授業)

7 課題・提出物等

授業の中で配付する演習プリント、定期考査範囲内の副教材の問題演習、授業ノート、長期休業における課題

8 担当者からの一言

テストだけではなく、毎回の授業の取り組み状況も重視しますので、授業には積極的に参加しましょう。そして授業の中の「なぜ？」は積極的に質問し、最後には「わかった」となるように努力をしましょう。また、授業だけではなかなか理解できるものではありません。問題演習等を数多くこなし、確かな力を身に付けてください。そのためには家庭学習の充実を心掛けて下さい。

教科(科目)	外国語（論理・表現Ⅰ）	単位数	3単位	学年(コース)	3学年 B選択
使用教科書	数研出版『BIG DIPPER English Logic and ExpressionⅠ』				
副教材等	数研出版『BIG DIPPER English Logic and ExpressionⅠワークブック』 文英堂『WISH総合英語』、文英堂『WISH ENGLISH GRAMMAR21UNITS』				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	～上越地域唯一の商業を専門とした高等学校として、生徒の多様な進路に対応した教育活動を行います～ ①1年生では基礎学力の充実に努めるとともに、積極的に将来の自分について探求する姿勢を育成します。 ②2年生では商業科目を系統的に学習することを通して、高い専門性を追求します。 ③3年生では学校の教育活動全体を通して、実社会で必要とされるビジネスマナーの習得を目指します。 ④各学年における探究的な学習活動や体験学習、教科横断的な学習により、深い学びを実践していきます。
カリキュラム・ポリシー	～このような生徒を求めています～ ①将来は自分でお店を持つなど、起業に関心がある生徒。 ②事務や販売などの仕事につくことを目指しており、そのための知識を学びたい生徒。 ③生まれ育った地域のために自分に何か出来るか考えている生徒。 ④新しいことに挑戦してみたいという積極性があり、進路希望実現のために努力を惜しまない生徒。 ⑤健康的で規則的な生活習慣をもち、ルールやマナーを守れる生徒。

2 学習目標

コミュニケーションを図る資質・能力を踏まえ、「話すこと[やり取り]」、「話すこと[発表]」及び「書くこと」ことを中心に、「聞く」、「読む」ことを関連づけながら、発信能力の育成を強化することを目指す。 1. 外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの理解を深めるとともに、これらの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる技能を身に付けるようにする。 2. スピーチ、プレゼンテーション、ディベート、ディスカッション、1つの段落を書くことなどを通して、論理の構成や展開を工夫して、話したり書いたりして伝える又は伝え合うことなどができるようになる。
--

3 指導の重点

1. 与えられた話題について、基本的な語句や文を使い簡単な事柄を即興で話す。 2. 日常的・社会的な話題について、基本的な語句や文を使い、読み手や目的に応じて簡単な内容を書く。 3. 発表の仕方や発表のために必要な表現などを学習し、聞いたり読んだり経験したことに基づき、情報や考えなどをまとめ、発表する。

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・英文を読み取るために必要となる語彙や表現、文の構造を理解している。 ・目的や場面状況に応じた論理の構成や展開が表現をすることができる。	・英語の表現を通して、それに対する日本語の表現の本質的な意味などに対する理解を深めようとしている。 ・日常的な話題で、得られた情報を整理しながら自らの考えを形成し、論理的に適切な英語で表現することができる。	・文化に対する理解を深めようとしている。 ・授業や与えられた課題に懸命に取り組む努力をしている。 ・学習の進め方を、自分で管理しようとしている。

5 評価方法

評価方法	評価は次の観点から行います。		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	以上の観点を踏まえ、 ・ペーパーテストやパフォーマンステストの分析 ・レポートやワークシート、課題、提出物などの内容の確認 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・ペーパーテストやパフォーマンステストの分析 ・レポートやワークシート、課題、提出物などの内容の確認 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・ペーパーテストやパフォーマンステストの分析 ・レポートやワークシート、課題、提出物などの内容の確認 ・振り返りシートの記述の分析 などから、評価します。
	内容のまとまりごとに、各観点「A:十分満足できる」、「B:おおむね満足できる」、「C:努力を要する」で評価します。 内容のまとまりごとの評価規準は授業で説明します。		

6 学習計画

月	単元名	授業時数 と領域	教材名	学習活動(指導内容)	時 間	評価方法
4	はじめに① 「だれが」「～する」をはっきりと はじめに② 動詞をうまく使おう はじめに③ 名詞の数などに 気をつけよう School Life School Subjects	12 [聞くこと] [読むこと] [書くこと] [話すこと] (発表・やりとり)	PART1 Lesson1, 2, 3 PART2 Lesson1, 2	・＜主語+動詞…＞の構造を理解して、英語と日本語の作りの違いを学ぶ ・基本的な動詞の意味を理解し、適切に活用する ・英語における数の概念を身につけ、単数形・複数形を適切に用いて表現する ・「勧誘」「提案」についての会話を聞き取る ・「好きな教科・好きでない教科」などの与えられた話題に対して、自分の意見や状況などを正しく伝える ・単元テスト	12	ワークシート (記述の点検) ワークシート (記述の確認) 活動の様子 (行動の確認)
5	My Friends My Family 「～である[ない]」「～ですか[しますか]」「～する[している]」「～した[していた]」などを英語で表現できる Free Time Feeling Well?	12 [聞くこと] [読むこと] [書くこと] [話すこと] (発表・やりとり)	PART1 Lesson4, 5 PART2 Lesson3, 4	・「肯定文・否定文」「疑問文」に注意して、個々の英文の内容を理解し、適切な思考・判断をもってそれに応答する ・適切な場面において、自分の考えが理解されるように、「確認」「訂正」の意味に注意して、相手の発言の意味を理解して対話を行う ・「先生・友人や本などから得た有益なアドバイス」などの話題に対して、自分の経験や考えなどを正しく伝える ・単元テスト	12	ワークシート (記述の点検) ワークシート (記述の確認) 活動の様子 (行動の確認)
中間考査						
6	Pastime My Town 未来に行うことについて、現在・過去における完了・継続・経験の意味を英語で表現できる。 Housework The Internet Is Fun	12 [聞くこと] [読むこと] [書くこと] [話すこと] (発表・やりとり)	PART1 Lesson6, 7 PART2 Lesson5, 6	・will を用いて「予測・自然の成り行き」や「意志」の意味を表現したり、be going to do, be doing を用いて、「前から計画していること」「近い未来の予定」の意味を表現したりする ・「完了・結果」「経験」「状態・動作の継続」の意味に注意して、個々の英文の内容を理解し、適切な思考・判断をもってそれに応答する ・単元テスト	12	ワークシート (記述の点検) ワークシート (記述の確認) 活動の様子 (行動の確認)
7 8	Our Teachers Visiting a Museum Famous People 能力・許可・推量などの意味を英語で表現できる。 催し物や行事・活動などについて、英語で表現できる。 I've lost your book Planning a trip	12 [聞くこと] [読むこと] [書くこと] [話すこと] (発表・やりとり)	PART1 Lesson8～10 PART2 Lesson7, 8	・「可能」「許可」「推量」の意味に注意して、個々の英文の内容を理解し、適切な思考・判断をもってそれに応答する ・「受け身」を使用するのが適切な場面や状況を理解して、コミュニケーションを図ろうとしている ・「個人での旅行とグループでの旅行のどちらがよいか」などの話題に対して、自分の意見やその理由などを正しく伝える ・パフォーマンステスト	12	ワークシート (記述の点検) ワークシート (記述の確認) 発表の様子 (行動の確認)
期末考査						

9	Reading Studying Abroad 読書や感情に関連する事柄などについて、英語で表現できる。 「～すること」「～する方法」などを英語で表現できる。 Experiences Abroad Exchange Students	12 [聞くこと] [読むこと] [書くこと] [話すこと] (発表・やりとり)	PART1 Lesson11, 12 PART2 Lesson9, 10	- 不定詞の「名詞的用法」「形容詞的用法」「疑問詞+ to do」の意味に注意して、個々の英文の内容を理解し、適切な思考・判断をもってそれに応答する - 人の性格や特徴などについて、「程度・結果を述べる」などの表現を含めて、コミュニケーションを図る技能を身につけている - 人の性格や特徴などについて英語で表現できる - 単元テスト	12	ワークシート (記述の点検) ワークシート (記述の確認) 活動の様子 (行動の確認)
10	Advice Hobbies My Vacation 「～するために」「…に～するよう頼む」などを英語で表現できる。 I Want To Be a... Cheer Up Your Friend	12 [聞くこと] [読むこと] [書くこと] [話すこと] (発表・やりとり)	PART1 Lesson13～15 PART2 Lesson11, 12	- to不定詞の副詞的用法や原形不定詞の用法に注意して、個々の英文の内容を理解し、適切な思考・判断をもってそれに応答する 「願望・目的」についての会話を聞き取る - 趣味や休暇での出来事などについて英語で表現できる - 単元テスト	12	ワークシート (記述の点検) ワークシート (記述の確認) 活動の様子 (行動の確認)
中間考査						
11	In a Zoo Our Team 2つのものを比べて、「同じくらい」「より～」「2倍の～」などを英語で表現できる。 Neighbors Farewell Party	11 [聞くこと] [読むこと] [書くこと] [話すこと] (発表・やりとり)	PART1 Lesson16～18 PART2 Lesson13	- 動名詞や不定詞の用法に注意して、個々の英文の内容を理解し、適切な思考・判断をもってそれに応答する - 情報・考えを整理して発表する - 同等比較や比較級、最上級、倍数表現でよく用いられる語彙などを習得する - 単元テスト	11	ワークシート (記述の点検) ワークシート (記述の確認) 活動の様子 (行動の確認)
12	Speeches Saving Resources	11 [聞くこと] [読むこと] [書くこと] [話すこと] (発表・やりとり)	PART1 Lesson19 PART2 Lesson14	- 賛成・反対の意見を述べることについての会話を聞き取る - 関係代名詞や関係副詞の用法に注意して、個々の英文の内容を理解し、適切な思考・判断をもってそれに応答する - パフォーマンステスト	11	ワークシート (記述の点検) ワークシート (記述の確認) 発表の様子 (行動の確認)
期末考査						
1	My Wish Social Problems	7 [聞くこと] [読むこと] [書くこと] [話すこと] (発表・やりとり)	PART1 Lesson20 PART2 Lesson15	「意見を尋ねる・述べる」ことについての会話を聞き取る - 社会問題や、プレゼント・行楽などの話題に対して、自分の意見や理由などを正しく伝える - 単元テスト	7	ワークシート(記述の点検) ワークシート(記述の確認) 活動の様子 (行動の確認)
2 3	A Birthday Gift	4 [聞くこと] [読むこと] [書くこと] [話すこと] (発表・やりとり)	PART1 Lesson21	- 名詞節を導く that, if (whether) や、副詞節を導く when, because, if を用いて、従節を含む文を表現する - プレゼントを贈る場面などについて、英語で表現できる - パフォーマンステスト	4	ワークシート(記述の点検) ワークシート(記述の確認) 発表の様子 (行動の確認)
学年末考査						

7 課題・提出物等

小テスト、パフォーマンステスト、課題作文、授業用ワークシート、ワークブックなど

8 担当者からの一言

基本的な文法や表現を学び、自分の考えや情報などを英語で話したり書いたりする科目です。自分の考えをしっかりと持ち、積極的に英語で書いたり、人前で話したりしていきましょう。

教科(科目)	商業（ソフトウェア活用）	単位数	3単位	学年(コース)	3学年 B選択
使用教科書	実教出版『ソフトウェア活用』				
副教材等	実教出版『全商ビジネス文書実務検定模擬試験問題集1級』 実教出版『全商情報処理検定模擬試験問題集1級(ビジネス情報)』				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	～上越地域唯一の商業を専門とした高等学校として、生徒の多様な進路に対応した教育活動を行います～ ①1年生では基礎学力の充実に努めるとともに、積極的に将来の自分について探求する姿勢を育成します。 ②2年生では商業科目を系統的に学習することを通して、高い専門性を追求します。 ③3年生では学校の教育活動全体を通して、実社会で必要とされるビジネスマナーの習得を目指します。 ④各学年における探究的な学習活動や体験学習、教科横断的な学習により、深い学びを実践していきます。
カリキュラム・ポリシー	～このような生徒を求めています～ ①将来は自分でお店を持つなど、起業に関心がある生徒。 ②事務や販売などの仕事につくことを目指しており、そのための知識を学びたい生徒。 ③生まれ育った地域のために自分に何が出来るか考えている生徒。 ④新しいことに挑戦してみたいという積極性があり、進路希望実現のために努力を惜しまない生徒。 ⑤健康的で規則的な生活習慣をもち、ルールやマナーを守る生徒。

2 学習目標

商業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、企業活動におけるソフトウェア活用に必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 企業活動におけるソフトウェアの活用について実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。 (2) 企業活動におけるソフトウェアの活用に関する課題を発見し、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を養う。 (3) 企業活動を改善する力の向上を目指して自ら学び、企業活動におけるソフトウェアの活用に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

3 指導の重点

・ビジネスの場面において、適切なソフトウェアを選択し、活用できることを目指します。 ・ビジネスの場면을想定し、企業活動におけるソフトウェア活用について、組織の一員としての役割を果たすことができる態度を育てます。
--

4 評価の観点の趣旨

知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
企業活動におけるソフトウェアの活用について実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにしている。	企業活動におけるソフトウェアの活用に関する課題を発見し、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に解決しようとしている。	企業活動を改善する力の向上を目指して自ら学び、企業活動におけるソフトウェアの活用に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。

5 評価方法

評価方法	評価は次の観点から行います。		
	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	以上の観点を踏まえ、定期考査の結果、確認テスト、提出物の内容などから評価します。	以上の観点を踏まえ、定期考査の結果、授業の取り組みの観察、提出物の内容などから評価します。	以上の観点を踏まえ、学習の取り組みの観察、提出物の内容、定期考査や検定試験の振り返りなどから、評価します。
	内容のまとまりごとに、各観点「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」で評価します。 内容のまとまりごとの評価基準は授業で説明します。		

6 学習計画

月	単元名	授業時数 と領域	教材名	学習活動(指導内容)	時間	評価方法
<u>4</u> <u>5</u> <u>6</u>	1章 企業活動とソフトウェア	24	教科書 問題集	身近な事例を基に、ビジネスにおけるソフトウェアを活用する活動により、ソフトウェアの意義と重要性を理解する。 ソフトウェアの進化が、社会に与える影響を考え、関連する知識を身に付ける。	24	授業の取り組み 授業時の課題 中間考査 課題の提出
<u>7</u>	2章 情報通信ネットワークの活用	15	教科書 問題集	ネットワーク機器の機能や情報技術の進歩に伴う通信手段の変化について理解する。 情報通信ネットワークのシステム障害に対処するための基本的な技術を身に付ける。 情報資産を保護するため、リスク管理の方法を理解するとともに、データバックアップの技術を身に付ける。	15	授業の取り組み 授業時の課題 期末考査 課題の提出
<u>8</u>	5章 業務処理用ソフトウェアの活用	12	教科書 問題集	グループウェアを活用する利点と、効率的に業務を行う方法について理解する。 販売管理及び給与計算ソフトウェアを活用する利点と、効率的に業務を行う方法について理解する。	12	授業の取り組み 授業時の課題 夏季休業課題
<u>9</u> <u>10</u> <u>11</u>	3章 表計算ソフトウェアの活用	27	教科書 問題集	表計算ソフトウェアを通して、情報の集計と分析について理解し、分析結果を表現する能力を身に付ける。 マクロ機能を用いて、手続きの自動化の考えを理解する。	27	授業の取り組み 授業時の課題 中間考査 課題の提出
<u>12</u>	4章 データベースソフトウェアの活用	14	教科書 問題集	データベースの構造を理解する。また、表を正規化するための手順を理解する。 SQLを用いた汎用的なデータベースの操作方法について理解する。	14	授業の取り組み 授業時の課題 期末考査 課題の提出 冬季休業課題
<u>1</u> <u>2</u> <u>3</u>	6章 情報システムの開発	13	教科書 問題集	情報システムの開発に関する基礎的な知識、技術について理解する。 コンピュータに指示を出すための手順であるアルゴリズムについて、基礎的な知識、技術を身に付ける。	13	授業の取り組み 授業時の課題 学年末考査

計 105 時間 (50 分授業)

7 課題・提出物等

- ・授業時の課題
- ・夏季休業、冬季休業課題

8 担当者からの一言

情報処理の内容を発展させ、ビジネスの場面に応じた適切なソフトウェアの選択やデータ処理、グラフなど図解の方法を学びます。

教科(科目)	商業（プログラミング）	単位数	3単位	学年(コース)	3学年 B選択
使用教科書	東京法令出版『プログラミング』				
副教材等	とうほう『情報処理検試験定 模擬問題集1級 プログラミング編2024』				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	～上越地域唯一の商業を専門とした高等学校として、生徒の多様な進路に対応した教育活動を行います～ ①1年生では基礎学力の充実に努めるとともに、積極的に将来の自分について探求する姿勢を育成します。 ②2年生では商業科目を系統的に学習することを通して、高い専門性を追求します。 ③3年生では学校の教育活動全体を通して、実社会で必要とされるビジネスマナーの習得を目指します。 ④各学年における探究的な学習活動や体験学習、教科横断的な学習により、深い学びを実践していきます。
カリキュラム・ポリシー	～このような生徒を求めています～ ①将来は自分でお店を持つなど、起業に関心がある生徒。 ②事務や販売などの仕事につくことを目指しており、そのための知識を学びたい生徒。 ③生まれ育った地域のために自分に何が出来るか考えている生徒。 ④新しいことに挑戦してみたいという積極性があり、進路希望実現のために努力を惜しまない生徒。 ⑤健康的で規則的な生活習慣をもち、ルールやマナーを守る生徒。

2 学習目標

(1)プログラムと情報システムの開発について実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付ける。 (2)企業活動に有用なプログラムと情報システムの開発に関する課題を発見し、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を身に付ける。 (3)企業活動を改善する力の向上を目指して自ら学び、企業活動に有用なプログラムと情報システムの開発に主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付ける。

3 指導の重点

ビジネスソフトウェアなどに備わった、処理を自動化する機能を用いプログラミングを具体化します。プログラミング実習を通じて様々な課題解決力を身につけます。

4 評価の観点の趣旨

知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
実務と関連付けられ、ビジネスのさまざまな場面で役に立つプログラムと情報システムの開発に関する知識と技術を身に付けている。	プログラミングをはじめとしたさまざまな知識、技術を活用して、企業活動に有用なプログラムと情報システムの開発に関する課題を発見しようとしている。また、プログラムと情報システムの開発が企業活動に及ぼす影響を踏まえ、課題に対して最適な解を導き出し、よりよく解決するための力を身に付けている。	企業活動を改善する力の向上を目指して自らプログラムと情報システムの開発について学ぶ態度を身に付けている。また、組織の一員として自己の役割を認識して当事者としての意識をもち、他者と信頼関係を構築して積極的に関わり、企業活動に有用なプログラムと情報システムの開発に責任をもって取り組む態度を身に付けている。

5 評価方法

評価方法	各観点における評価方法は次のとおりです。		
	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	以上の観点を踏まえ、定期考査の結果、確認テスト、提出物の内容などから評価します。	以上の観点を踏まえ、定期考査の結果、授業の取り組みの観察、提出物の内容などから評価します。	以上の観点を踏まえ、学習の取り組みの観察、提出物の内容、定期考査や検定試験の振り返りなどから、評価します。
	内容のまとまりごとに、各観点「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」で評価します。 内容のまとまりごとの評価基準は授業で説明します。		

6 学習計画

月	単元名	授業 時数 と領域	教 材 名	学習活動(指導内容)	時間	評価方法
4	アルゴリズムの表現技法 とデータ構造 手続き型言語のプログラ ミング	3	教科 書 問題 集	アルゴリズムの表現技法	3	授業の取り組み
5		6 3		データ構造	6 3	授業時の課題
6				プログラミングの手順		中間考査
7				データの入出力と演算		課題の提出
8				条件判定と繰り返し処理		期末考査
9				配列の利用		夏季休業課題
10				配列を利用した集計		
11	情報システムの重要性 ハードウェアとソフトウ ェア プログラムと情報システ ムの開発 オブジェクト指向型言語 のプログラミング	3		情報システムとプログラム	3	期末考査
12		1 2		情報システムの活用	1 2	授業時の課題
1		9		ハードウェアの機能と動作	9	
2		6		ソフトウェアの体系と役割	6	学年末考査
3		9		情報システムの開発演習	9	
					オブジェクト指向型言語を使ったアプ リ開発	

計105時間 (50分授業)

7 課題・提出物等

- ・授業時の課題
- ・夏季休業、冬季休業課題

8 担当者からの一言

情報処理やソフトウェア活用の内容を発展させ、企業活動に有用なプログラムと情報システムの開発に主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けることを目指します。

教科(科目)	家庭科（生活と福祉）	単位数	3単位	学年(コース)	3学年 B選択
使用教科書	実教出版『生活と福祉』				
副教材等	実教出版『生活と福祉学習ノート』				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	～上越地域唯一の商業を専門とした高等学校として、生徒の多様な進路に対応した教育活動を行います～ ①1年生では基礎学力の充実に努めるとともに、積極的に将来の自分について探求する姿勢を育成します。 ②2年生では商業科目を系統的に学習することを通して、高い専門性を追求します。 ③3年生では学校の教育活動全体を通して、実社会で必要とされるビジネスマナーの習得を目指します。 ④各学年における探究的な学習活動や体験学習、教科横断的な学習により、深い学びを実践していきます。
カリキュラム・ポリシー	～このような生徒を求めています～ ①将来は自分でお店を持つなど、起業に関心がある生徒。 ②事務や販売などの仕事につくことを目指しており、そのための知識を学びたい生徒。 ③生まれ育った地域のために自分に何が出来るか考えている生徒。 ④新しいことに挑戦してみたいという積極性があり、進路希望実現のために努力を惜しまない生徒。 ⑤健康的で規則的な生活習慣をもち、ルールやマナーを守れる生徒。

2 学習目標

乳幼児期の特徴を理解し、基本的な知識と技術を習得させる。
 高齢者の健康と生活、介護などに関する知識と技術を習得させ、高齢者の生活の質を高めるとともに自立生活支援と福祉の充実に寄与する能力と態度を育てる。

3 指導の重点

- ・時事社会問題のレポート課題などがあります。班で話し合いなどをします
- ・手作り絵本や点字カレンダーなどの製作提出があります。

4 評価の観点の趣旨

知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
家庭生活の意義や役割を理解し家庭や地域の生活を充実向上するために必要な基礎的・基本的な知識と技術を身につけている。	家庭や地域の生活について課題を見だし、その解決を目指して思考を深め、適切に判断し工夫し創造する能力を身につけ、表現する力を身につけている。	家庭や地域の生活について関心をもち、その充実向上を目指して主体的に取り組もうとするとともに、実践的な態度を身につけている。

5 評価方法

評価方法	各観点における評価方法は次のとおりです。		
	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	以上の観点を踏まえ、 ・授業の取り組み（発表態度、学習活動への参加状況）・提出物（作品のできばえ、授業プリントの内容）・定期テスト などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・授業の取り組み（発表態度、学習活動への参加状況）・提出物（作品のできばえ、授業プリントの内容）・定期テスト などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・授業の取り組み（学習活動への参加状況、実習記録）・提出物（作品のできばえ、授業プリントの内容） などから、評価します。
	内容のまとまりごとに、各観点「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」で評価します。内容のまとまりごとの評価基準は授業で説明します。		

6 学習計画

月	単元名	授業時数 と領域	教材名	学習活動(指導内容)	時間	評価方法
4	【健康と生活】 ・幼年期における福祉	15	ワークシート	○児童福祉について理解する	15	学習プリント
5		30	視聴覚教材	・乳幼児の発達とその援助方法 ・造形表現技術を身につける	30	レポート
6						定期テスト
7				*手作り絵本作製		提出作品
8	【高齢者の現状・ 高齢者の特徴】	15	ワークシート	○認知症高齢者の理解と支援 ・高齢者の心身の特徴を理解する	15	学習プリント
9			視聴覚教材			活動状況
10	【高齢者の自立 支援と介護】	25		○高齢者への理解と支援 ・高齢者の介護の知識と介護技術を理解する	25	実習レポート
11				*シニア体験*身体障害者の介護 (車いす体験実習) *食事介助実習*体位変換実習		提出作品
12						定期テスト
1	【視覚・聴覚障害 者の理解と介護】	20	ワークシート	○高齢者の視覚・聴覚障害の理解と支援	20	実習レポート
2,3			視聴覚教材	*点字の基本の習得 *点字カレンダー作製 *手話の基本		実技テスト 定期テスト

計 105 時間 (50 分授業)

7 課題・提出物等

- ・時事社会問題のレポート課題などがあります。班で話し合いなどをします
- ・手作り絵本や点字カレンダーなどの製作提出があります。

8 担当者からの一言

乳幼児、高齢者福祉を中心に学びます。知識だけではなく、技術も確実に身につきます。社会の出来事に関心を向け、様々な気づきがあり実生活で生かすことができる科目です。